目次

レポートコマンドの挿入 1
レポートコマンドの挿入: はじめに 1
分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入 2
矢印を全て表示 4
ウィンドウ閲覧 4
測定寸法情報ボックス挿入 17
測定寸法情報作成ルール 19
表示オプション 20
画像オプション 21
位置の軸線 25
位置の軸 27
情報削除 29
DIMINFO コマンド 29
[点データ]ボックスの挿入 31
情報削除 35
POINTINFO コマンド 35
画像オプション 37
プログラマーのコメント挿入 39
ｵﾍﾟﾚｰﾀ 42
レポート 43

ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ 44

入力 45

はい/いいえ 47

測定値 50

ﾚﾎﾟｰﾄの表示 51

自動継続の実行 52

全画面表示 53

メディアのインポート 54

ﾒﾃﾞｨｱの削除 56

コメント テキスト 57

ASCII 文字の挿入 57

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。 58

REPORT コマンド 59

PARAM コマンドを使用して、PC-DMIS の式をオブジェクトプロパティへマップングすること 64

外部オブジェクトの挿入 64

印刷コマンドの挿入 64

PRINT/REPORT コマンド用シンタックスの理解 65

PRINT/REPORT コマンドの編集 73

書式供給コマンドの挿入 74

ビューセットの利用 75

FORM コマンドの挿入 77

スクリーン キャプチャの挿入 81

スナップショットの挿入 82

レポートコマンドの挿入

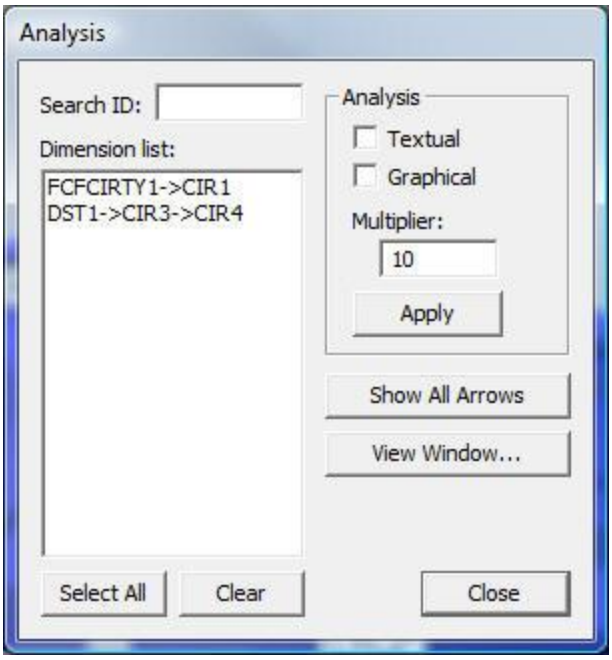
レポートコマンドの挿入: はじめに

PC-DMIS では、編集ウィンドウに様々なコマンドの種類を挿入でき、それはレポートの何の情報がどのように表示することを影響できます。**挿入 | レポート コマンド | 分析** サブ・メニューから選択されたメニューオプションを挿入されたこれらのコマンドでは、プログラマに設定、表示、印刷、およびできる限りの編集ウィンドウの外観をカスタマイズできます。

次のトピックは、本章で説明されています。

- 分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入
- 測定寸法情報ボックス挿入
- [点データ]ボックスの挿入
- プログラマーのコメントの挿入
- 測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。
- 外部オブジェクトの挿入
- 印刷コマンドの挿入
- 形状供給コマンドの挿入
- ビューセットの利用
- FORM コマンドの挿入
- 画面キャプチャの挿入
- スナップショットの挿入

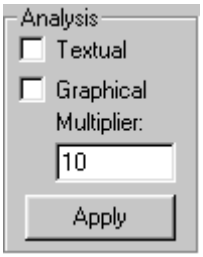
分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入



分析ダイアログ ボックス

挿入 | コマンドのレポート | 分析 メニューオプションは**[分析]**ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスには、精密検査のために適切なフォーマットで**分析**ウィンドウに寸法のプリントを送信します。「分析」ウィンドウから、ANALYSISVIEW コマンドを「編集」ウィンドウに挿入して、分析をレポートに組み込むことができます。分析ウィンドウの詳細については、「ウィンドウの表示」トピックを参照してください。

このダイアログボックスが開いている場合は、自動的に**寸法一覧**ボックスにその要素を使って寸法を強調するためにグラフィックス表示ウィンドウで要素をクリックすることができます。



このダイアログ ボックスの[**分析**] エリアを使用して[**測定結果の一覧**]ボックスから選択した測定結果をグラフィカルまたはテキスト読み取り形式のいずれかで表示することができます。

デフォルトででは[**分析**]エリアのチェックボックスは選択されていません。[**テキスト**]または[**グラフィカル**]チェックボックスを選択して[**適用**]をクリックすると PC-DMIS は選択した測定結果をてテキスト形式またはグラフィカルイメージのいずれかで表示します。CAD データは、全く表示されません。

フィーチャーに問題があり、その原因を決める必要がある場合、グラフィックス分析オプション、または、テキスト分析オプションのいずれかを持っていると役に立ちます。

平面の平面度を検査し、許容範囲外であったと仮定します。グラフィックス分析オプションを使用すると、平面を検査して特定エリアが悪いかどうか、または平面全体が異常であるかどうかを判定することができます。

グラフィカル - グラフィカルチェック ボックス が選択された場合、PC-DMIS は、テキストとして閲覧できるフォーマットで測定寸法の情報を保存します。

テキスト - テキストチェック ボックスが選択された場合、PC-DMIS は、テキストとして閲覧できるフォーマットで測定寸法の情報を保存します。

乗数 - 乗数ボックス内の値は、グラフィックス分析モードにおいて、矢印及び誤差域を拡大する、測定係数です。例えば、2.0 が数値として入力されると、PC-DMIS は、矢

印のグラフィックス イメージを二倍に拡大します。このオプションは閲覧目的のみの使用であり、テキスト プリントアウトのみには影響を及ぼしません。

矢印を全て表示

Show All Arrows

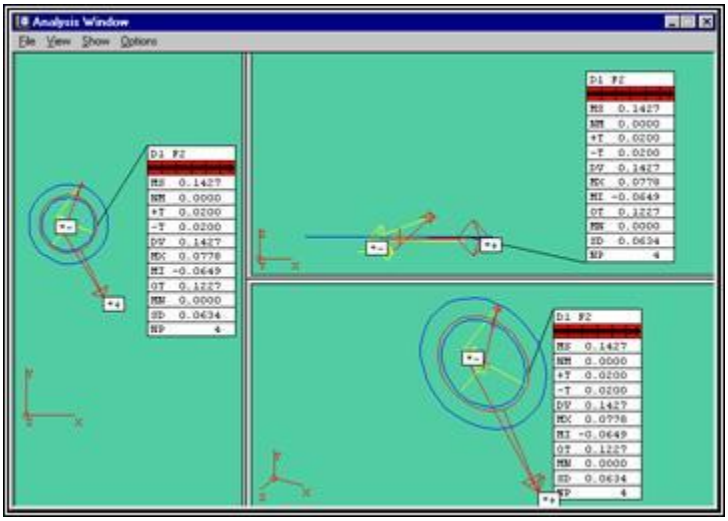
すべての矢印を表示 ボタンが、マース偏差に使用されるグラフィカルな分析矢印を表示します。これらのグラフィックス分析矢印は、矢印ごとに隠すことが可能です。これを行うには、CTRL + シフト キーを押し、隠す矢印上をクリックして下さい。**すべての矢印を表示**ボタンをクリックしてこの矢印を表示します。その後、グラフィックス分析矢印は表示目的用に再設定されます。

ウィンドウ閲覧

View Window

分析ダイアログボックスで、**表示ウィンドウ**ボタンは、分析ウィンドウが表示されます。

分析ウィンドウのメニュー バーを用いると、グラフィックス画像を変更し、その時点でのグラフィックス スクリーンをキャプチャーし、または、選択された測定寸法の色付けを編集することができます。



分析ｳｨﾝﾄﾞｳ

分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入

このウィンドウにアクセスするには：

1. **挿入 | レポートコマンド | 分析** メニューオプションを選択して、**[分析]**ダイアログボックスを表示します。
2. **分析**ダイアログボックスから：
    - 分析 ウィンドウに検査される寸法を選択します。
    - **乗数**ボックスで、値を入力して、矢印と公差ゾーンを拡大します。
3. **ウィンドウの表示**ボタンをクリックして、解析ウィンドウを開きます。

分析ウィンドウ上のメニュー バーには、以下のメニューがあります:

- **ファイル**
- **ビュー**
- **表示**
- **オプション**

分析ウィンドウでのグラフィックス分析の初期画像を決めるために、PC-DMIS は、スキャン画像の輪郭寸法用のスキャン切断面ベクトルか、または、他の寸法用のその時点での作業平面か、のいずれかを使用します。この画像は、後に変更が可能です。

ファイル メニュー

分析ウィンドウ **のファイル** メニューはグラフィックス分析ウィンドウの内容を印刷用のプリンタに直接に発送します。

*分析ウィンドウ***ビュー** メニューは選択された寸法のグラフィックス表示を一時的に変更できます。画像を回転、サイズ調整、または、変更することによって、必要な測定寸法に容易にアクセスできます。

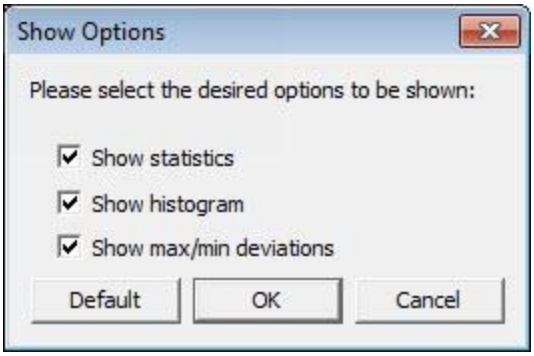
点のセットのプロファイルエラーを表示しているときに、このオプションは特に有用です。

[表示 | 変更] メニューオプションを使用して CAD ファイルから新しいビューを作成できます。この機能は 2 D IGES ファイルが 1 つの平面にパートの複数のビューを含み、グラフィックの表示ウィンドウに正しい向きでビューを関連付ける必要がある場合に便利です。ビューの操作に関する、より詳しい情報については、「CAD 表示の編集」の章にある「スクリーンビューのセットアップ」を参照して下さい。

ビュー| フィットに規模拡張 メニューオプションはグラフィック表示ウィンドウ内に完全に収まるように一部の画像を描画します。画像が大きくなりすぎ、または、小さくなりすぎた時に、この機能は役に立ちます。

見る | 回転 メニュー オプションを選ぶと、**回転** ダイアログ ボックスが表示され、それを用いると 3 次元のパーツ画像を回転することができます。

CAD 表示の編集」章の「 図面を回転 」トピックはもっと詳細的に回転について説明します。



ダイアログ ボックス オプションを表示します

*分析ウィンドウの***表示|オプション表示**メニューのコマンドは**オプション表示**ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスで、分析ウィンドウ内で表示したいものを決めることができます。

分析ウィンドウの **表示 | 寸法統計を表示** を選択すると、**寸法情報を編集** ダイアログ ボックスが現れます。このダイアログボックスを用いると、ハイライト表示された測定寸法を詳細に渡って編集することができます。詳細については「旧式寸法の使用」章の「測定寸法ダイアログ ボックスの共通オプション」、及びこの章の「寸法情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

統計の表示 - 分析ウィンドウ内のさまざまな統計情報を表示します。**統計表示**チェックボックスが選択されない場合、(いずれの測定寸法についても) 測定寸法の情報テキストは表示されません。分析ウィンドウに表示される、統計フォーマットを変更するには、**測定寸法情報編集**を参照して下さい。

ヒストグラムの表示 - 各ポイントの偏差のヒストグラムを表示します。ヒストグラムを解析ウィンドウ内の新しい場所に移動することができます。

分析ウィンドウ内の新しい位置に移動するには:

1. ご希望の柱状グラフをクリックして下さい。
2. ご希望の位置に、カーソルをドラッグして下さい。
3. マウスボタンをリリースして下さい。

最大 / 最小偏差を表示 - 正負記号で示された最大と最小の偏差を表示します。

オプション メニュー

分析ウィンドウの **オプション** メニューを用いると、その時点でのグラフィックス画像を今後の使用のためにキャプチャーすることができます。これを用いるとまた、**色の編集** ダイアログ ボックスにもアクセスでき、分析ウィンドウのサイズ変更を行うこともできます。

分析ビューコマンドの作成/保存

*分析ウィンドウ*の「**オプション|分析ビューコマンドを作成**」メニューオプションは、分析ウィンドウに使用される寸法、ビューおよび回転を使用し、編集ウィンドウで ANALYSISVIEW コマンドにその情報を挿入します。PC- DMIS が ANALYSISVIEW コマンドを実行すると、次のようになります:

- PC- DMIS は、一時的に分析ウィンドウを開き、その内容の画面をキャプチャします。
- PC- DMIS は、[レポート]ウィンドウで、この画面のキャプチャを表示します。それは、自動的にレポートウィンドウに合わせて画面キャプチャのサイズを変更します。これは、レポートウィンドウの TextReportObject に挿入されます。TextReport オブジェクトの詳細については、「測定結果のレポート：概要」の章「 TextReportObject 」トピックを参照してください。それは AnalysisWindow オブジェクトには影響しません。

このオプション用の編集ウィンドウ のコマンドラインは、以下のようになります:
ANALYSISVIEW/D1,D2,D3,,

D1,D2,D3 = 表示される寸法の一覧。

使用可能なディメンション パラメータの数に、限度はありません。

編集ウィンドウに「ANALYSISVIEW」と入力しても、ANALYSISVIEW コマンドが作成されます。分析用に選択された測定寸法はいずれも、このコマンド用のパラメータになります。

レポート用にグラフィックス画像保存

別の画面がキャプチャされるまで、あるいは測定ルーチンが閉じるまでクリップボードの画像は残ります。

*分析ウィンドウの***オプション | レポート用にグラフィックス画像保存** メニュー オプションを選ぶと、分析ウィンドウにある画像が獲得され、DISPLAY/METAFILE コマンド

内に保存されます。実行時には、これが今度は、キャプチャー画像をインスペクションレポート内に送付します。

PC-DMIS には、キャプチャーされた画像を編集、または、フォーマットする能力はありません。グラフィックス画像は、カーソルの所在位置で表示されます。

この DISPLAY/METAFILE コマンドは DISPLAY/METAFILE コマンドと異なり、 以下の方法で、メインメニューから生成されます：

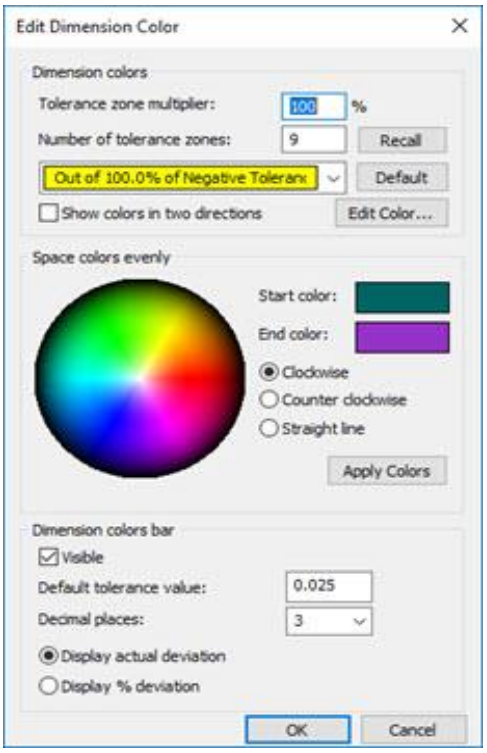
- これは、そのメニュー項目が選択されると、グラフィックス表示ウィンドウ内ではなく、分析ウィンドウ内の画像のスクリーン キャプチャーを行います。
- 実行中に画面のキャプチャが奪還されない、それは静的なイメージです。

実行中に、自動的に更新するスクリーン キャプチャーの作成については、「分析画像コマンドの作成 」を参照して下さい。

DISPLAY/METAFILE コマンドに関する、より詳しい説明については、「編集ウィンドウの使用」の項にある「画面キャプチャ」を参照して下さい。

寸法色付け編集

*分析ウィンドウの***オプション | 測定寸法色の編集** メニュー オプションを選ぶと、特定された公差範囲用に色付けを設定することができます。このオプションを選択して、[**寸法色の編集**]ダイアログボックスを表示します。



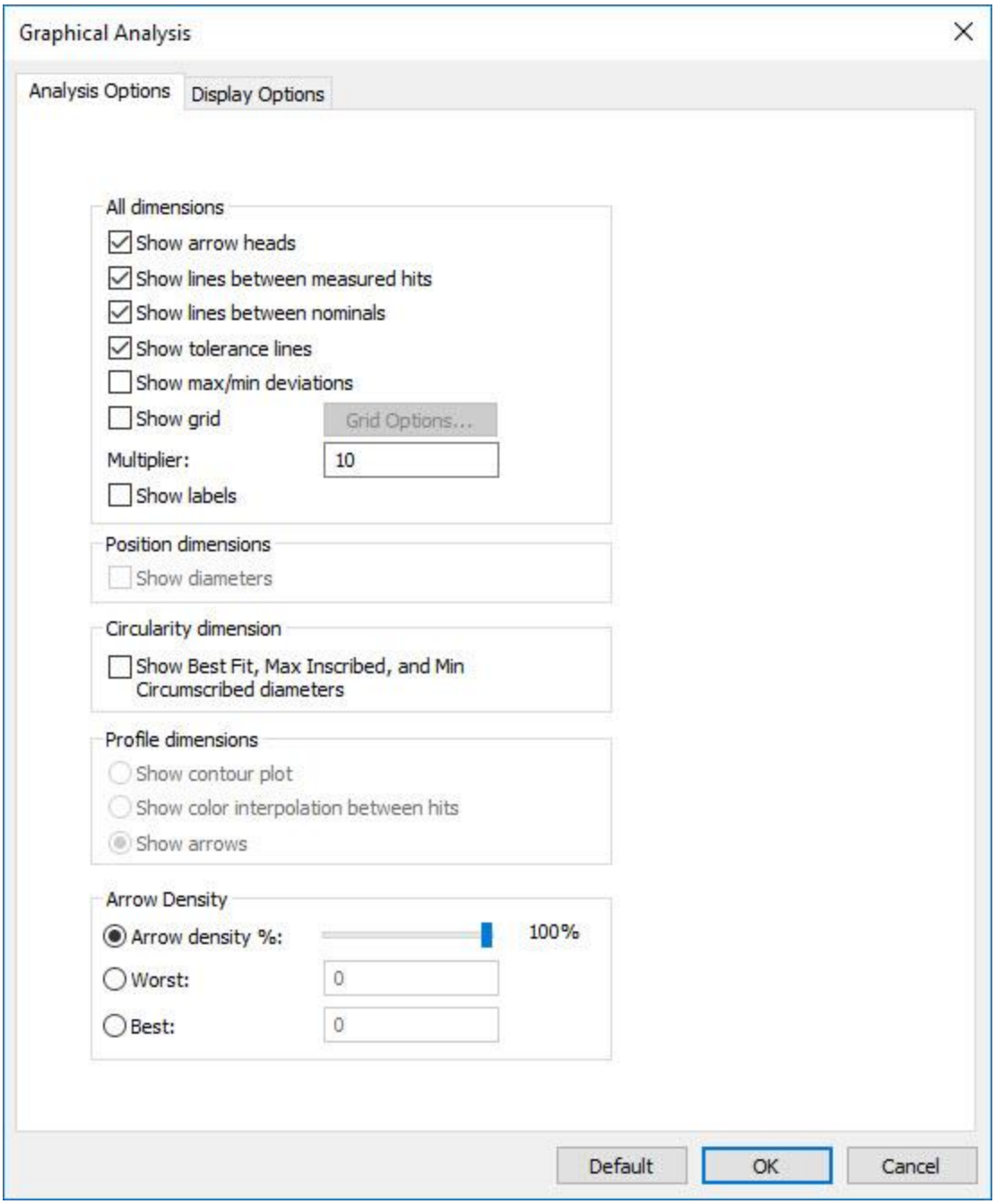
[寸法色の編集] ダイアログ ボックス

このダイアログボックスを使用して公差の寸法色を変更する方法については、「CAD 表示オプションの編集」の章の「寸法色の編集」トピックを参照してください。

測定寸法オプション

この**グラフィックス 分析オプション**ダイアログ ボックスを用いると、分析ウィンドウ内で表示される情報を決めることができます。

分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入



グラフィック分析ダイアログボックス

このダイアログボックスにアクセスするには：

1. メニューから**挿入 | レポートコマンド | 分析** を選択して、**[分析]**ダイアログボックスを表示します。
2. **[分析]**ダイアログボックスの**[寸法一覧]**ボックスから、寸法を選択します。

3. **ウィンドウの表示**ボタンをクリックして、解析ウィンドウを表示します。
4. 分析ウィンドウのメニューから、**オプション| 寸法オプション**を選択して、**[図形解析]**ダイアログボックスを表示します。

このダイアログボックスには、以下の 2 つのタブがあります:

- **[分析オプション]**タブ - このタブの項目の説明については、後述の「分析オプションタブ」を参照してください。
- **[表示オプション]**タブ - このタブの項目の説明については、「**レポートオプション**」タブが記述された「測定実績のレポート」章の「AnalysisWindow オブジェクト」トピックを参照してください。

分析のオプションタブ

矢印を表示する - これは偏差線に矢印を示します。

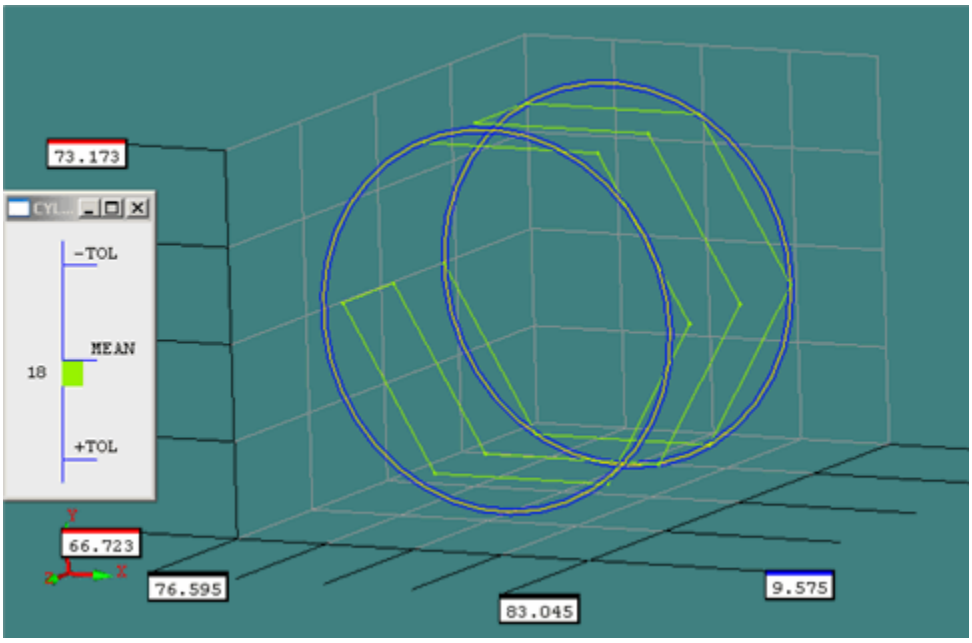
[測定された取込点間の線を表示] これは測定された取込点間の線の表示/非表示を切り替えます。

公称値間の線を表示 これは公称値間に引かれた線の表示を切り替えます。

公差線を表示 このチェックボックスは、合格の寸法公差の表示を切り替えます。

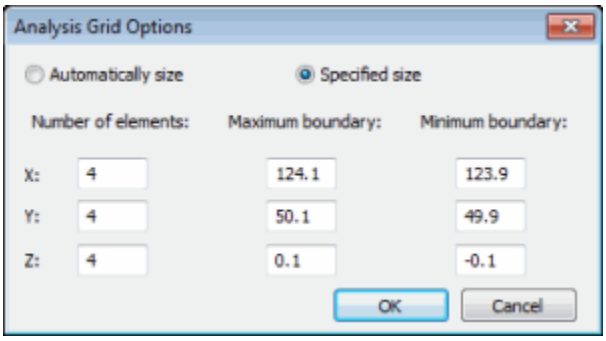
最大 / 最小偏差を表示 このチェックボックスは最大値と最小偏差が' ***+** ' または' ***-** ' 記号で示されるようにします。

グリッドを表示 - これは、グラフィカルな分析の *3D グリッド状の背景*を表示します。グリッドを有効にするのは回転した項目の表示に助けます。それも**グリッドオプション** ボタンを有効にします。



格子が有効な状態でのグラフィックス分析の例

グリッドのオプション - これは**分析グリッドオプション**ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログボックスを使用してグリッドを定義することができます。



分析グリッドのオプションダイアログ ボックス

このダイアログ ボックスには、以下のオプションがあります:

自動的サイズ調整 - これは、X、Y、及び、Z フィールドで特定されたオブジェクトの数に基づき、格子を自動的にサイズ調整します。

指定されたサイズ - これは**最大 境界** と**最小 境界**ボックスを有効にして、最大値と最小値の境界の指定サイズを入力できます。

図形要素数 - これは、分析格子上に描写される、図形要素部分の数を定義します。

最大境界 - これは、分析格子座標の上限を定義します。

最小境界 - これは、分析格子座標の下限を定義します。

グリッドオプション - これはグラフィカル分析モードの偏差の矢印および公差領域を拡大する倍率を入力できます。2.0 の値が入力されている場合は、PC - DMIS は各要素ヒットの 2 回の計算偏差の矢印をスケーリングします。

このオプションは閲覧目的のみに使用され、テキストのみのプリントアウトには反映されません。

直径を表示 - これは利用可能な位置の測定結果の直径を表示します。

最適化の直径を表示、**最大内接直径**、**最小外接直径** - これらのチェックボックスは、円形寸法の直径を表示します。これらの直径は円形要素の平均、最大と最小の偏差を表示します。

等高線プロットの表示 - このオプションはパッチスキャンのみに適応される輪郭寸法に利用可能になります。等高線プロットはパッチスキャンポイントを使用してメッシュを作成します。それは次に色が各ヒットからの輪郭偏差に関連付ける色でメッシュを覆います。

PC-DMIS はグラフィックス表示ウィンドウ内の CAD モデルの等高線プロットを表示できます。詳細については、「レガシー寸法の使用」章の「表面プロファイル等高線グラフの表示」を参照してください。

ヒット間の色補間を表示 - これがヒット間に色を挿入します。このオプションは、輪郭寸法に利用できます。

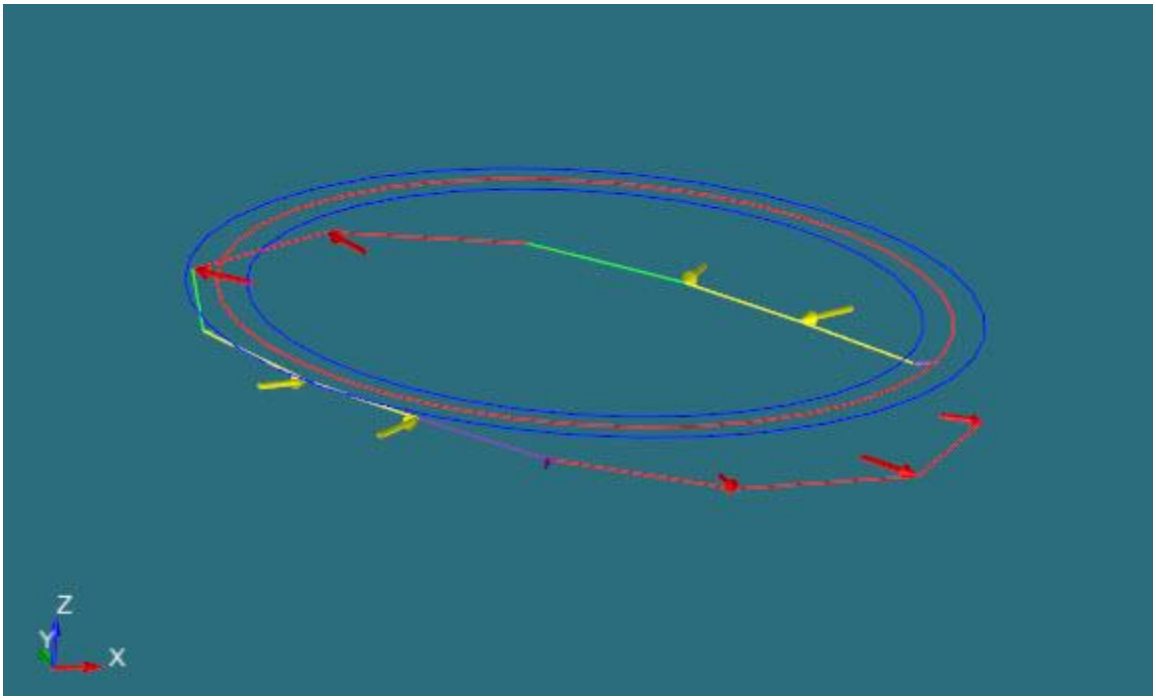
矢印を表示 - これは、各点の偏差の矢印を表示します。このオプションは、輪郭寸法に利用できます。

矢印の密度 - このスライダは全体のグラフィカルな解析を使用している測定ルーチンの任意の寸法に表示された点の矢印の密度を変更できます。

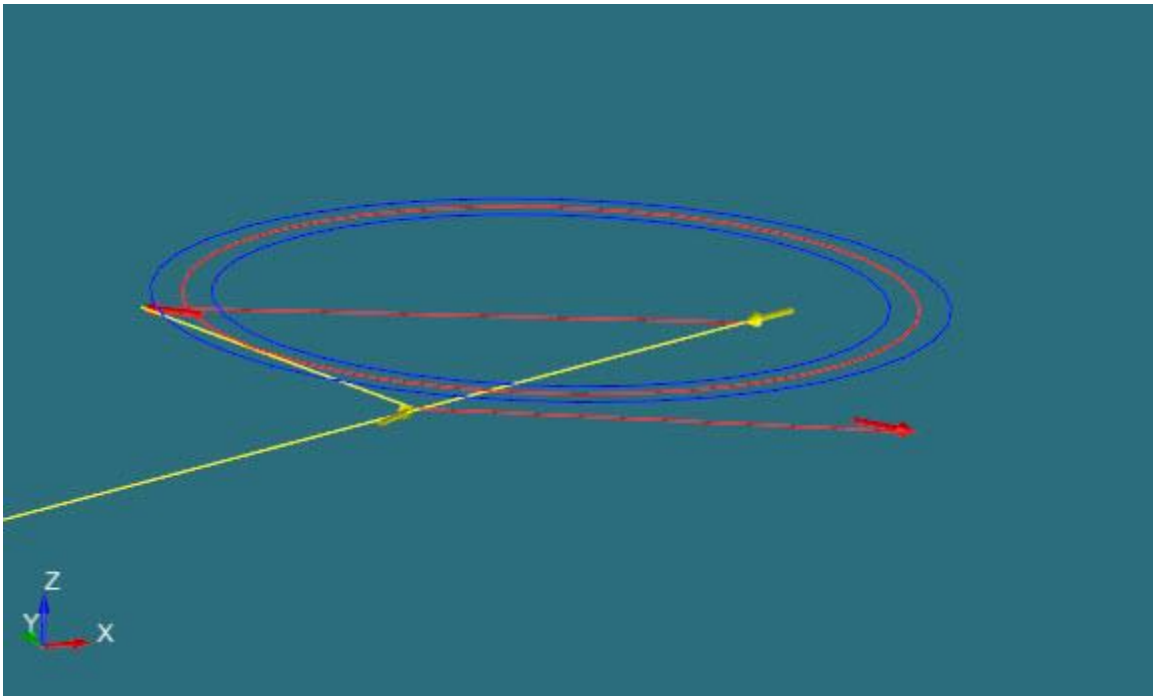
これは **XactMeasure GD&T** ダイアログボックスの**レポート**タブにおける**矢印密度**機能とは異なります。**レポート**タブにおける設定はその特定の測定結果にのみ影響を及ぼします。「要素コントロールフレーム使用の概要」章の「レポートタブ」を参照してください。

最悪 - このレジストリエントリは矢印を表示する最悪の偏差の数を定義します。次の例では、左にすべての矢印を表示し、三つの最悪の矢印を右に表示します。

最良 - このボックスは矢印を表示する最良偏差の数を定義します。

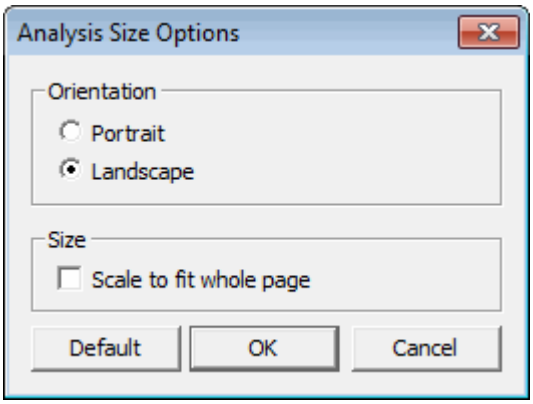


全ての偏差 (100 %矢印密度) の実例



三つの最悪偏差の例

サイズ オプション



分析サイズオプションダイアログ ボックス

分析サイズ オプション ダイアログ ボックスを用いると、分析ウィンドウ内で情報がどのように表示されるか、を決めることができます。また、これらのオプションを用いると、ANALYSISVIEW コマンドを設定することができ、それによって、PC-DMIS が、実行中に、以下の選択されたモードのうちのひとつにおいて、スクリーン キャプチャーを行います。(「分析ビューコマンドの作成」を参照して下さい。)

以下のオプションを選択できます：

肖像

このオプションは分析ウィンドウをサイズし、それが標準的なポートレートのページサイズと一致します。

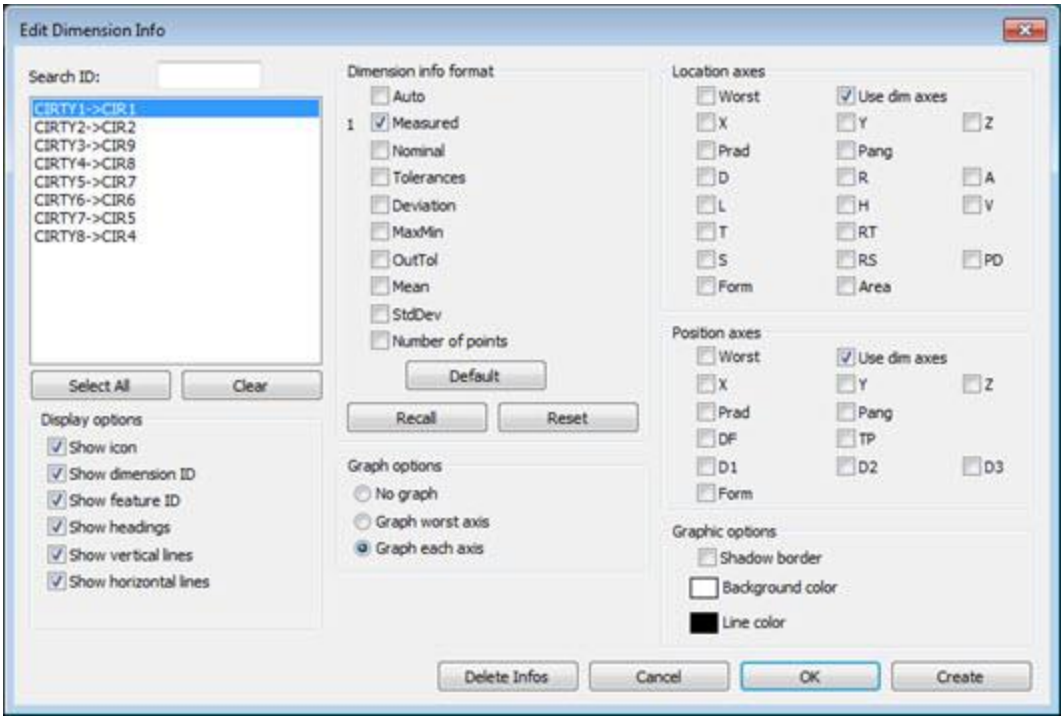
ランドスケープ

このオプションは分析ウィンドウをサイズし、それが標準的なランドスケープのページサイズと一致します。

ページ全体に拡大

このチェックボックスはウィンドウをスケールして、それは全体の印刷されたページに合わせます。

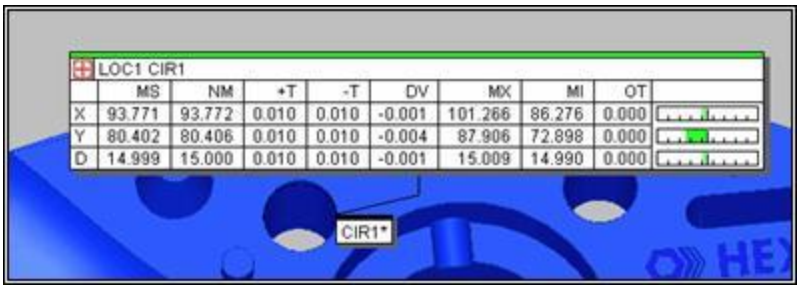
測定寸法情報ボックス挿入



編集寸法情報ダイアログ ボックス

挿入 | レポート コマンド | 測定寸法情報 メニュー オプションを選ぶと**寸法情報編集**ダイアログ ボックスが現れます。このダイアログを用いると、DIMINFO コマンドが作成され、このコマンドによって、グラフィック表示ウィンドウ内に、選択された測定寸法

情報が表示されます。編集ウィンドウでの DIMINFO コマンド編集に関する情報については、「DIMINFO コマンド」を参照して下さい。



ディメンション情報ボックスのサンプル

寸法がすでに DIMINFO テキストボックスを含まれる場合、ダイアログ ボックス内の寸法リストがアスタリスク(*)を表示します 、DIMINFO のテキストボックスはグラフィックの表示ウィンドウにビューから隠されている場合、それは番号記号 (#) が表示されます。

```
LOC1->CIR1->*
LOC2->CIR2->*#
LOC3->CIR3
```

サンプル寸法リストが既存して隠される DIMINFO ボックスを表示します。

自動チェック ボックス (このダイアログの**測定寸法情報フォーマット**エリアの下) は、選択された寸法のタイプに基づいて、表示に適切な測定寸法出力フォーマットを自動的に決定します。このオプションをくつがえすためには、ご希望の**測定寸法情報フォーマット**チェック ボックス (複数可) を選択して下さい。PC-DMIS は、当該チェック ボックスの左側に数字を表示し、出力セレクションの順序を示します。これを用いて、個々のニーズを満たすよう、フォーマットの順序を変更することができます。チェック ボックスを二度目に選択することで、容易にそのチェックを消去できます。

このダイアログボックスが開いている場合は、自動的に**寸法一覧**ボックスにその要素を使って寸法を強調するためにグラフィックス表示ウィンドウで要素をクリックすることができます。

編集寸法情報 ダイアログ ボックスは表示される寸法情報を編集できます。以下の段落はこのダイアログボックスに利用可能なオプションを説明しています。

測定寸法情報作成ルール

[**測定結果情報の編集**] ダイアログボックスから DIMINFO ボックスを作成する場合、[**測定結果一覧**] ボックスはカーソルの現在位置より上にある測定結果のみ表示します。

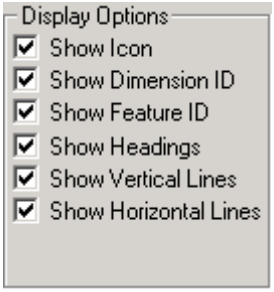
テキスト ボックスモードで DIMINFO ボックスを作成し、グラフィック表示ウィンドウ内でボックス選択する場合、PC-DMIS は選択されたすべての要素に対して DIMINFO ボックスを作成するわけではありません。カーソルのその時点での位置より上にある要素のみのために DIMINFO ボックスが作成されます。

測定ルーチンが複数のビューセットを持つ場合、対応する測定寸法かそれ以下の寸法を含むビューセットにおいてのみ、DIMINFO ボックスは表示されます。例えば、測定ルーチンに以下のコマンドがあったと想定します

```
VIEWSET1
F1 = FEAT
VIEWSET2
VIEWSET3
D1 = DIMENSION
VIEWSET4
```

挿入点が D1 の下に存在していた場合に、要素 f1 の DIMINFO ボックスのみを追加することができます。DIMINFO ボックスが作成されると、 PC- DMIS は VIEWSET1 および 2 ではなく、VIEWSET3 および 4 でそれを表示します。

表示オプション



[**表示オプション**]エリアを用いると、グラフィックス表示ウィンドウ内で、各測定結果を表示する場合の各種様式が利用可能になります。

以下のオプションが利用可能です。

アイコン表示チェックボックス
このチェックボックスは **寸法情報**ボックスのヘッド場所の適切な寸法のアイコンの表示を切り替えます。

寸法表示 ID チェックボックス
　このチェックボックスはグラフィックス表示ウィンドウ内の寸法の ID を表示する能力を切り替えます。

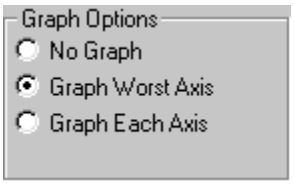
要素 ID を表示チェックボックス
このチェックボックスは寸法が測定される要素の ID を表示する能力を切り替えます。

タイトル表示チェックボックス
このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の行と列の見出しの表示を切り替えます。

垂直線表示チェックボックス
このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の列の間の縦線の表示を切り替えます。

水平線表示チェックボックス

このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の行の間の横線の表示を切り替えます。

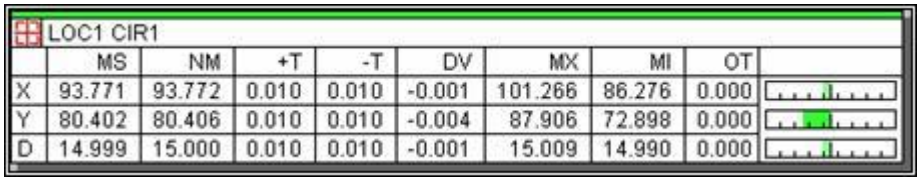


Graph オプション エリアはグラフオプションのグラフィカルが**寸法情報** ボックス内の寸法の割合を表示します。

非グラフ - 寸法情報ボックスに、グラフを表示したくない場合は、このオプションを選択します。

最悪軸の描画 - 寸法情報ボックスの上にグラフを表示するには、このオプションを選択します。最悪測定寸法のパーセンテージのみが、グラフに表示されます。

各軸を描画 - 寸法情報ボックスに、すべての軸の寸法の割合グラフを表示するには、このオプションを選択します。

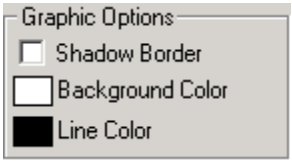


LOC1 CIR1

	MS	NM	+T	-T	DV	MX	MI	OT
X	93.771	93.772	0.010	0.010	-0.001	101.266	86.276	0.000
Y	80.402	80.406	0.010	0.010	-0.004	87.906	72.898	0.000
D	14.999	15.000	0.010	0.010	-0.001	15.009	14.990	0.000

測定結果情報ボックス

画像オプション

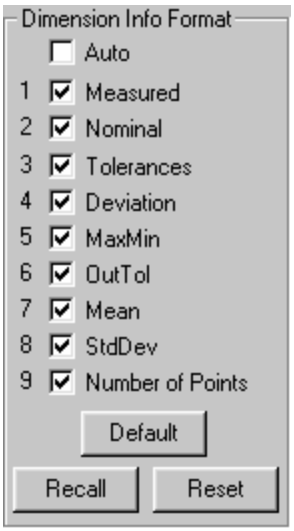


グラフィックオプションエリアはグラフィック表示ウィンドウに背景色と表示された現在寸法情報ボックスを定義できます。PC-DMIS が寸法情報ボックスのまわりに覆う境界を表示するかどうかを定義できます。

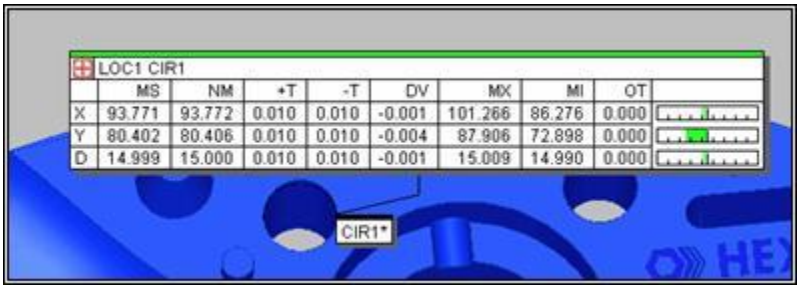
寸法情報ボックスのグラフィックオプションを変更するには、このエリアから目的のオプションを選択して**作成**または **OK** をクリックします。

また、新規に作成された測定寸法情報ボックス用のデフォルト グラフィックス オプションを設定することもできます。これを行うには、目的のオプションを選択し、**寸法情報形式**エリアから**デフォルト**ボタンをクリックします。

このトピックは、旧式の要素ラベルにのみ適用されます。[**要素の外観**]ダイアログボックスの[**旧式のグラフィックラベルを使用する**]チェックボックスから、旧式の要素ラベルを有効にできます。このチェックボックスをオフにして新しい要素ラベルを使用しても、このエリアは影響を受けません。詳細については、「CAD 表示の編集」章の「要素外観の編集」のトピックを参照してください。



測定寸法情報フォーマットエリアのチェック ボックスを用いると、グラフィックス表示ウィンドウ内で表示される、各寸法の情報タイプを選択することができます。測定寸法のダイアログ ボックス内から**表示**チェック ボックスが選択された場合、PC-DMIS は、グラフィックス表示ウィンドウ内にその情報を表示します。



グラフィックの表示ウインドウに表示されている、要素 CIR1 の寸法データ

ダイアログ ボックスの [**測定結果情報**] エリアは以下のようになります：

自動

自動ボックスは以下の情報を自動的に表示します：測定値、公称値、公差、偏差、最大最小、公差範囲外。

測定値

このチェックボックスは実際に測定された測定結果を表示します。

公称値

このチェックボックスは測定結果の理論値を表示します。

公差

このチェックボックスは公称値より大きい、または小さい公差レベルで受け入れ可能なものを表示します。

偏差

このチェックボックスは公称値から測定値の偏差を表示します。

最大最小

このチェックボックスには測定結果を作成する点からの最大偏差値と最小偏差値が表示されます。任意の測定結果についてこれをマークできますが、それは線プロファイルおよび面プロファイルの測定結果に対してのみ意味をなします。この一例としては、「ユーザー設定」章の「パラメータ設定：測定結果タブ」トピックを参照してください。

公差範囲外

このチェックボックスは測定値の公差が公称値からどれだけ離れているかとその公差値を表示します。

平均

このチェックボックスは測定結果のすべての偏差の平均を表示します。

標準偏差

このチェックボックスは測定結果のすべての偏差の標準偏差を表示します。

点の数

このチェックボックスは測定結果の要素測定に使用する点の数を表示します。

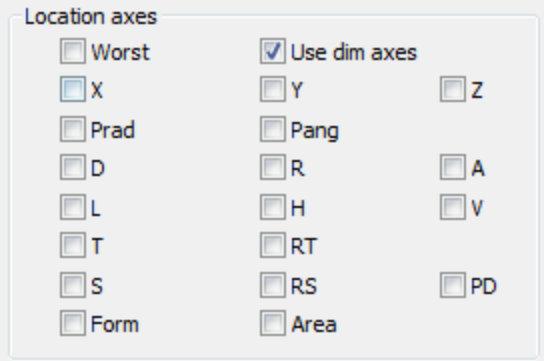
コマンドボタンは、次のとおりです:

読出し - セット・デフォルトを読み出します。

デフォルト - デフォルトとしてチェックボックスの現時点の選択を設定します。

リセット - このボタンはこのセクションのすべてのマックされたボックスをクリアして**自動**チェックボックスを選択します。

位置の軸線



この表には、測定寸法情報を編集中に、選択可能な**位置軸線** とその機能についての内容説明があります。

以下のオプションが利用可能です。

最悪チェックボックス
このオプションは公差状態の最悪のアウトを提供する軸を使用します。PC-DMIS は利用可能な軸 を検索して寸法の最悪ケースシナリオを提供するのを選択します。

寸法軸の使用チェックボックス
このチェックボックスは寸法のダイアログ ボックスに以前定義された軸を使用します。

X チェックボックス
は、X 軸の値を表示します。

Y チェックボックス
は、Y 軸の値を表示します。

Z チェックボックス
は、Z 軸の値を表示します。

PRAD チェックボックス
PRAD は極半径を表しています。このオプションは極座標を選択します。

Pang チェックボックス
パンは極角度の略です。このオプションは極座標を選択します。

エリアチェックボックス
は選択されたブロブ要素の領域を表示します。それが DIMINFO ボックス及びレポートに AR として表示されます。レガシーレポートは (PC-DMIS Vision は、ブロブの機能を使用しています) また、**位置**エリアから**寸法軸を使用**チェックボックスをマークした場合にこの情報のみが表示されます。**寸法軸の使用**の詳細については、「位置座標軸」を参照してください。

D チェックボックス
直径値を表示します。

R チェックボックス
半径 (直径の半分) 値を表示します。

A チェックボックス
(円錐の) 角度値を表示します。

L チェックボックス
長さ (円柱、スロット、円錐および楕円向けに用いられる)を表示します。

H チェックボックス
高さを表示します。

V チェックボックス
角度の場所を表示します。

T チェックボックス
アプローチ ベクトルに沿ったエラー (曲面上の点向けの)を表示します。

RT チェックボックス
レポート ベクトルに沿った偏差を表示します。

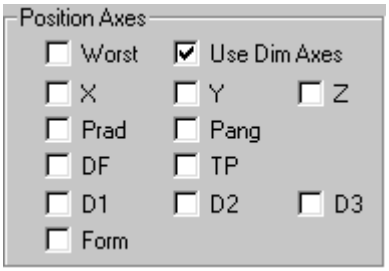
S チェックボックス
表面ベクトルに沿った偏差を表示します。

RS チェックボックス
表面レポートベクトルに沿った偏差を表示します。

PD チェックボックス
円の直径 (ピンのベクトルに垂直)を表示します。

形状チェックボックス
は要素向けの統合された形の寸法を表示します。詳細については、「レガシー寸法の使用」章の「位置寸法のデフォルト軸」を参照してください。

位置の軸



この表には、測定寸法情報を編集中に、選択可能な**位置軸**とその機能についての内容説明があります。

以下のオプションが利用可能です。

最悪チェックボックス
このオプションは公差状態の最悪のアウトを提供する軸を使用します。PC-DMIS は利用可能な軸 を検索して寸法の最悪ケースシナリオを提供するのを選択します。

寸法軸の使用チェックボックス
このチェックボックスは寸法のダイアログ ボックスに以前定義された軸を使用します。

X チェックボックス
このチェックボックスは X 軸の値を表示します。

Y チェックボックス
このチェックボックスは Y 軸の値を表示します。

Z チェックボックス
このチェックボックスは Z 軸の値を表示します。

PRAD チェックボックス
PRAD は極半径を表しています。このオプションは極座標を選択します。

Pang チェックボックス
パンは極角度の略です。このチェックボックスは極座標を選択します。

DF チェックボックス
このチェックボックスは要素の直径を表示します。

TP チェックボックス
このチェックボックスは位置公差およびそれに関連する寸法を表示します。

D1 チェックボックス
このチェックボックスは一番目の基準要素の直径/幅を表示します。

D2 チェックボックス
このチェックボックスは二番目の基準要素の直径/幅を表示します。

D3 チェックボックス
このチェックボックスは三番目の基準要素の直径/幅を表示します。

形状チェックボックス
このチェックボックスは要素向けの統合された形の寸法を表示します。詳細については、「レガシー寸法の使用」章の「位置寸法のデフォルト軸」を参照してください。

情報削除

[**情報削除**] ボタンは測定ルーチンからすべての [POINTINFO] コマンドを削除します。

DIMINFO コマンド

DIMINFO コマンドは、**測定寸法情報編集**ダイアログ ボックス (**挿入 | レポート コマンド | 測定寸法情報**)によって作成されます。

DIMINFO コマンドが測定ルーチンに挿入された場合、寸法データーはグラフィックの表示ウィンドウに表示されます。DIMINFO コマンドが編集ウィンドウに変更されます。DIMINFO コマンドのコマンドラインは以下のように読み込めます:

```
DIMINFO/Dim ID ;ICON,DIMID,FEATID,VERT,HORIZ; HEADINGS,
"GRAPH OPTION";"DIMENSION OUTPUT”, ,$
"AXES OUTPUT"
```

Dim ID = 寸法 ID は表示に選択されます。

ICON - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「ICON」を表示するトグル ストリングです。オンの時には、DIMINFO が、適切なアイコンと共に、測定寸法とフィーチャーID を表示します。

DIMID = オフの時には空白を表示し、オンの時には「DIMID」を表示する トグルストリングです。オンの時には、DIMID が、測定寸法情報と共に、測定寸法 ID を表示します。

FEATID = オフの時には空白を表示し、オンの時には「FEATID」を表示するトグル ストリングです。オンの時には、DIMID が測定寸法情報と共に、測定寸法の一番目の要素の ID を表示します。

VERT = オフの時には空白を表示し、オンの時には「VERT」を表示するトグル文字列です。オンの時には、DIMINFO が列間の縦線と共に、表示されます。

HORIZ = オフの時には空白を表示し、オンの時には「HORIZ」を表示するトグル文字列です。オンの時には、DIMINFO が行間の横線と共に、表示されます。

HEADINGS = オフの時には空白を表示し、オンの時には「HEADINGS」を表示する切り替えの文字列です。それがオンする場合、列と行ヘッドは**寸法情報** ボックスに表示されます。

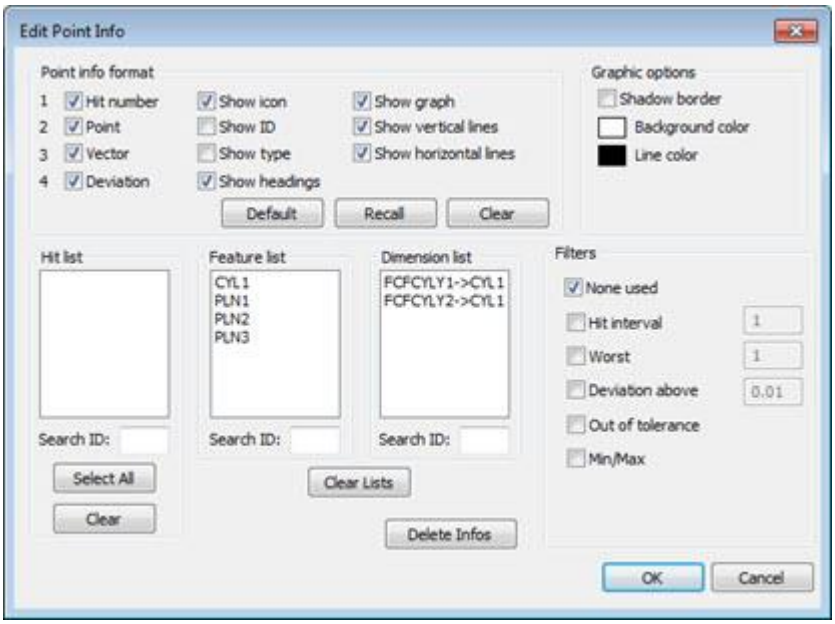
GRAPH OPTION - グラフオプションのグラフィカルは **寸法情報** ボックス内の寸法の割合を表示します。可能なトグル値は、GRAPH WORST と GRAPH AXIS です。当トグル ストリングが空白を表示する場合、ボックス内に図表は表示されません。

DIMENSION OUTPUT - 寸法情報のフォーマットは選択の順序に基づいて表示されます。利用可能な出力オプションは、測定値、名目値、公差、偏差、最大最小、公差域外、中間値、標準偏差、及び、ポイント数。オプションは複製することはできません。

AXES OUTPUT - 寸法軸 のフォーマットは選択の順序に基づいて表示されます。利用可能な軸 は寸法の種類に依存して全部の場所と場所軸を含まれます。USEDIM は第 1 軸の位置に切り替えている場合、DIMINFO は、寸法で指定されている軸 が表示されます。WORST がいずれかの軸線位置においてトグルされて

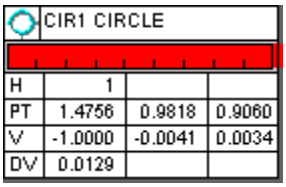
いる場合、最大の公差域外値を持つ軸線が表示されます。このインプットは場所また場所寸法の寸法に利用可能です。軸は複製することはできません。

[点データ]ボックスの挿入



編集ポイント情報の ダイアログ ボックス

挿入 | レポート コマンド | ポイント情報メニュー オプションを選ぶと**ポイント情報編集**ダイアログ ボックスが現れます。このダイアログボックスは、グラフィックの表示で個々のポイントの情報を表示する POINTINFO コマンドを作成します。各情報ボックスはヒット番号、XYZ の位置、IJK 角、また特定のヒットに関連する偏差を表示します。編集ウィンドウでの POINTINFO コマンドに関する情報については、「POINTINFO コマンド」トピックを参照して下さい。



ポイント情報ボックスが円要素内の一番目のヒットを表示します。

グラフィック表示ウィンドウ内の点情報を挿入するには：

1. **挿入 | レポート コマンド | ポイント情報**メニュー オプションを選ぶと、**ポイント情報編集**ダイアログ ボックスが現れます。
2. **要素一覧**または**寸法一覧**から、少なくとも 1 つの要素または寸法を選択します。選択されたアイテムに関連付けられる個々のポイントは **ヒットリスト** ボックスに表示されます。複数の寸法や要素が選択された場合は、**ヒットリスト**が表示されず、寸法や要素からの全ての点は、情報ボックスに表示されます。
3. **取込み点リスト**ボックスから表示したい 1 つまたは複数の点を選択します。
4. **点情報の形式**エリアから、表示したい項目をマークします。チェックボックスの横に表示される任意の数字は行の順序を示します。
5. **[OK]**ボタンをクリックして、グラフィック表示ウィンドウに情報ボックスを作成します。

ユーザは類似の方法で**寸法情報**ボックスのフォーマットに形式を保存、変更及び移動することができます。寸法情報ボックスの詳細については、「寸法情報ボックスの挿入」を参照してください。

ダイアログ ボックスのこの部分では、要素または測定結果の横にあるグラフィックス表示エリアに表示する、情報のタイプを決定します。このセクションのチェックボックスは、**[作成]**(編集時は**[適用]**)ボタンと連動して使用されるか、表示する情報を選択または削除するには**[OK]**ボタンと連動して使用する必要があります。チェックボックスの横に表示される任意の数字は行の順序を示します。

ヒット数 - チェックボックスは要素の点のヒットシーケンスを表示します。

円が一般的に 4 つの取込み点を取得し、その円の測定に使用される取込み点の 1 つが選択された場合、このオプションはその取込み点が順番に (1 番目、2 番目、3 番目、4 番目) 取得されたタイミングを示す番号 (1 ~ 4) を表示します。

ポイント - チェックボックスが選択されたヒットの X、 Y 及び Z 点の位置を表示します。

ベクトル - このチェックボックスは選択されたヒットの IJK 角度を表示します。

偏差 - チェックボックスは、点の理論値からのずれを表示します。

- *要素に対しては*、点のずれは測定された取込点と実際の取込点の間の距離となります。
- *測定結果に対しては*、点のずれは測定結果の型に関連し、テキスト形式の測定結果分析に現れる個別の点に対するずれの表示と同じです。

アイコンを表示 - このチェックボックスは寸法情報ボックスのヘッダ部分に要素のアイコンを表示します。

ID を表示 - このチェックボックス は特定寸法または要素の ID を表示できます。

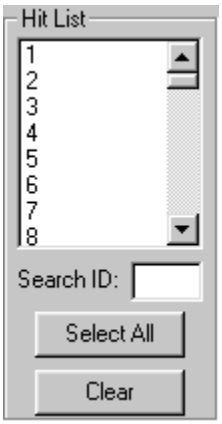
タイプを表示 - チェックボックスは表示された要素または寸法のタイプを表示できます。

見出しの表示 - このチェックボックス はポイント情報 ボックス内の行の見出しを表示できます。

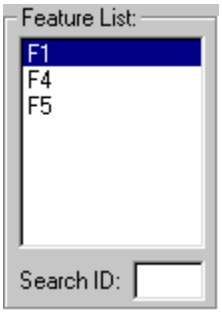
グラフを表示 - このチェックボックスはポイント情報ボックス内の寸法の割合グラフを表示できます。

垂直線を表示 - このチェックボックスはポイント情報 ボックス内の垂直線を表示または非表示できます。

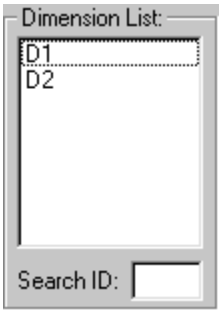
水平線を表示 - このチェックボックスはポイント情報ボックス内の水平線を表示または非表示できます。



ヒット リスト ボックスは特定の機能または寸法に関連付けられるすべてのヒットのリストを含まれます。単に、読みたい情報を持つヒットを選択して下さい。



要素リスト ボックスは特定の測定ルーチンに関連付けられるすべての要素のリストを含まれます。単に、閲覧したいヒットの情報を持つ要素を選択します。要素に関連した取込点は **取込点の一覧**ボックスに表示されます。



寸法リスト ボックスは特定の測定ルーチンに関連付けられるすべての寸法のリストを含まれます。単に閲覧したいヒットの情報を持つ測定寸法を選択して下さい。

測定結果に関連した取込点は [**取込点の一覧**] ボックスに表示されます。

情報削除

[**情報削除**] ボタンは測定ルーチンからすべての [DIMINFO] コマンドを削除します。

POINTINFO コマンド

POINTINFO コマンドは、**測定寸法情報編集** ダイアログ ボックス (**挿入 | レポート コマンド | 測定寸法情報**)によって作成されます。

POINTINFO コマンドが測定ルーチンに挿入された場合、**ポイント情報** ボックスはグラフィックの表示ウィンドウに表示されます。POINTINFO コマンドが編集ウィンドウに変更されます。POINTINFO コマンドのコマンドラインは以下のように読み込めます:

```
POINTINFO/Dim ID or Feat ID; FILTER FILTER_TYPE
FILTER_NUM;ICON,ID,TYPE,VERT,HORIZ; HEADINGS, GRAPH; ”OUTPUT
FORMAT” ,$
"HIT NUMBERS"
```

寸法 ID または要素 ID - 寸法または要素の ID は表示されます。

FILTER_TYPE = トグル文字列は NONE, INTERVAL, WORST, DEVIATION、または OUTTOL フィルタオプションを表示します。

FILTER_NUM = フィルタオプションが INTERVAL, WORST、または DEVIATION である場合には、番号フィールドは利用可能になります。

ICON - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「ICON」を表示するトグル ストリングです。オンの時には、POINTINFO が、適切なアイコンと共に、測定寸法とフィーチャーID を表示します。

ID = オフの時には空白を表示し、オンの時には「ID」を表示するトグル文字列です。オンの時には、POINTINFO が適切なアイコンと共に、測定寸法 ID、または、要素 ID を表示します。

TYPE - オフの時には空白を表示し、オンの時には「TYPE」を表示するトグル文字列です。オンの時には、POINTINFO がポイント情報で要素または寸法(たとえば円、点、丸み、位置など)を表示します。

VERT = オフの時には空白を表示し、オンの時には「VERT」を表示するトグル文字列です。オンの時には、POINTINFO が列間の縦線で表示されます。

HORIZ = オフの時には空白を表示し、オンの時には「HORIZ」を表示するトグル文字列です。オンの時には、POINTINFO が行間の横線と共に、表示されます。

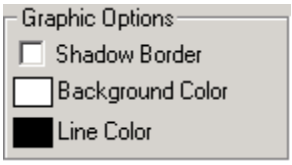
HEADINGS = オフの時には空白を表示し、オンの時には「HEADINGS」を表示する切り替えの文字列です。それがオンする場合、行ヘッダーは**ポイント情報** ボックスに表示されます。

GRAPH - オフの時には空白を表示し、オンの時には「GRAPH」を表示する トグル文字列です。オフの時には、寸法の割合はグラフィカルに**点情報** ボックスに表示されます。

OUTPUT FORMAT - 寸法情報のフォーマットは選択の順序に基づいて表示されます。利用可能な出力オプションは、HIT、PT、 V、および DEV ですが、オプションは複製できません。

HIT NUMBERS - ヒット番号はこの特定 POINTINFO コマンドでコントロールされる指定番号されたヒットです。POINTINFO コマンドの使用で複数ヒットは表示されます。ヒット番号の各フィールドはトグル文字列です。ヒットが ON にされる場合、番号の位置の文字列はヒット数は (1,2,3 など) です。ヒットがオフの時、文字列の場所の表示は空白のままです。

画像オプション



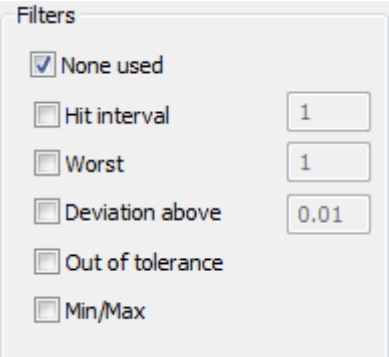
グラフィックス オプションエリア

グラフィックオプションエリアは背景色と表示された現在ポイント情報ボックスを定義できます。PC-DMIS がポイント情報ボックスのまわりに覆う境界を表示するかどうかを定義できます。

ポイント情報ボックスのグラフィックオプションを変更するには、このエリアから目的のオプションを選択して**作成**または **OK** をクリックします。

簡単に必要なオプションを選択して新しく作成されたポイント情報ボックスのグラフィックオプションをデフォルト値を設定でき、また**ポイント情報形式**エリアの**デフォルト**ボタンをクリックします。

このトピックは、旧式の要素ラベルにのみ適用されます。[**要素の外観**]ダイアログボックスの[**旧式のグラフィックラベルを使用する**]チェックボックスから、旧式の要素ラベルを有効にできます。このチェックボックスをオフにして新しい要素ラベルを使用しても、このエリアは影響を受けません。詳細については、「CAD 表示の編集」章の「要素外観の編集」のトピックを参照してください。



フィルター エリア

フィルターエリアでは、個々のポイントに関する情報表示の際に使用される、フィルター オプションを設定することができます。

未使用 - これは、どんなフィルタリングも POINTINFO コマンドに使用しないように PC-DMIS に命じます。すべて選択されたヒットが POINTINFO コマンドで表示されます。

ヒット間隔 - このオプションはその右側のボックスの整数値をチェックし、POINTINFO コマンドで選択した特定のヒット間隔を表示します。たとえば、2 が選択された場合、全部の二番目のヒットが表示され、3 の場合、全部の三番目のヒット、4 の場合、全部の四番目のヒットなどです。

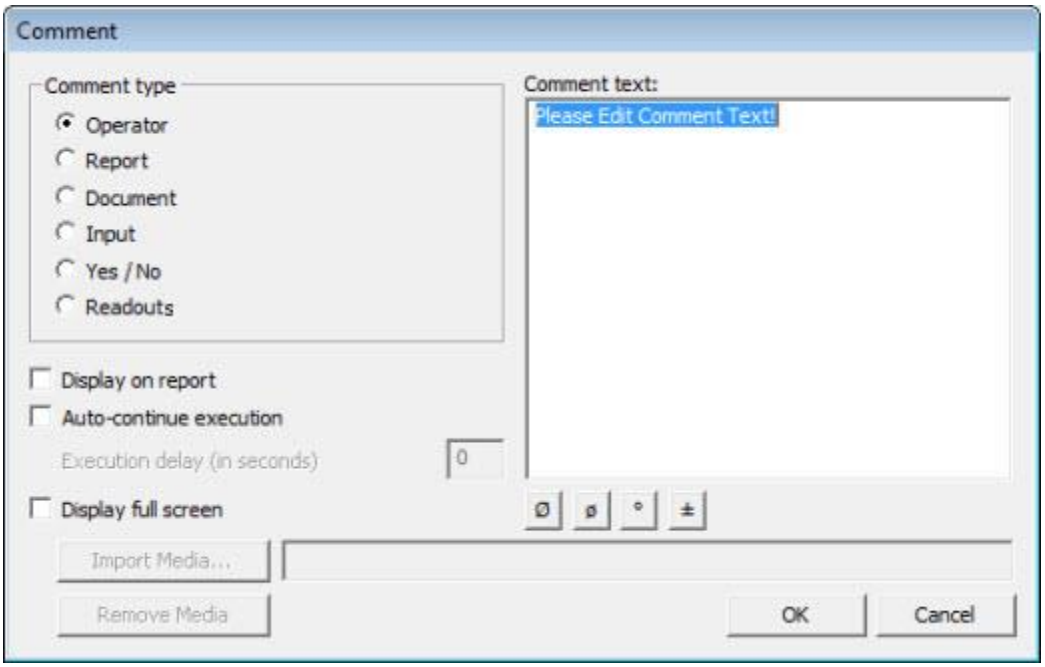
最悪 - このオプションはその右側に整数値チェックボックスをチェックし、寸法の最悪の偏差を与えるヒットのみを表示します。たとえば、ボックスに 3 を入力する場合、POINTINFO コマンドは 3 つの最悪の偏差を表示します。

上記偏差 - これは、右側のボックスに整数値をチェックし、寸法の最悪偏差を与えるヒットだけを表示します。たとえば、ボックスに 3 を入力する場合、 POINTINFO コマンドは 3 つの最悪の偏差を表示します。

公差外れ - このオプションは、公差外れの偏差を持つヒットのみを表示します。 (測定結果に関係なく) 要素に関連するヒットについては、 **[設定オプション]**ダイアログ ボックス の**[一般]**タブにある**[偏差公差の表示]** より大きな偏差をもつヒットのみが表示されます。 (「優先設定」の項の「 偏差公差の表示」を参照してください。)

最小/最大 - これはそれらの寸法の最大値と最小偏差値を持つヒットを表示します。MaxMin 値の一つの例は、「環境設定」の「パラメータ設定：寸法タブ」章を参照してください。

プログラマーのコメント挿入



「コメント」ダイアログ ボックス

[**挿入 | レポートコマンド | コメント**]メニューオプションを使用して、オペレータの注、説明、またはサポートするメディアファイルを編集ウィンドウに追加でき、測定ルーチンが実行されたときや検査レポートが印刷されたときに表示することができます。コメントのテキストの長さに制限はありません; ただし、コマンドモードで 255 文字が 1 行に適合します。テキストが、編集ウィンドウの右側に達する場合、Enter キーを押します。(これによって、全体のテキストが**コメントテキスト**ボックスに表示されます) 新しい行を作成するには、**コメントテキスト**ボックスの希望の場所にカーソルを置き、ENTER キーを押します。

コメントの入力

コマンドモードで編集ウィンドウにコメントを入力することもできます。これをするには、COMMENT と入力し、キーボードで TAB キーを押して OPERATOR、REPORT など、目的のコメントの型を入力してください。TAB キーを押してコマンドを承認するか、コメントテキストを含むフィールドに移動します。

コマンドモードで編集ウィンドウに直接コメントを入力するとき、PC-DMIS は押した最初の Enter キーをコメントにおける追加テキスト行として解釈します。コメントの後に新規コマンドを入力したい場合、コメントテキストの最後で改行キーを *2 回*押します。

コメントの文字列の変数の使用

既存のコメント文字列に変数を結びつけたい、または、付け加えたい、とします。これを行うには、2 つの方法があります。最初に ENTER を押し、以下のように新しいコメントラインの変数を入力します:

```
C1 =COMMENT/INPUT,NO,Full Screen=YES,Auto-Continue=NO,
変数を入力してください
ASSIGN/V1=C1.INPUT
COMMENT/OPER,NO,Full Screen=YES,Auto-Continue=NO,
あなたの V1 変数は
V1
```

第二に、以下のようにして、変数でない文字列を引用符で囲み、プラス サイン演算子を用いて変数を文字列に付け加えることで、変数とコメント文字列を同じ行に配置することが可能です:

```
COMMENT/OPER,NO,Full Screen=YES,Auto-Continue=NO,
"ユーザーの V1 変数は" + V1
```

コメント色の変更

コメントの詳細を目立たせることができます。コメントの色を変更してこれを行うことができます。

- 編集ウィンドウにそれらを変更するために、「編集ウィンドウの配色を定義」を参照してください。
- レポートウィンドウに表示されるコメントの色を変更するには **TextReportObject** レポートテンプレートエディタの色プロパティを変更します。

レポートでコメントの色を変更する別の方法はコメントテキストの前に以下の特別なプレフィックスを直接挿入することです。

~~#

これはこのコメントでマークされたかマークされないステップモードに定義されたテキスト配色を使用して、また**ウィンドウ色の編集**ダイアログ ボックスにエラー検索に使用します。

#に０１，０２，０３か０４を入力できますが、これら４つの数字はマークされたかマークされないステップモードまたエラー配色にを当てはめます。

テキストの色をエラーに割り当てられていくつかのコメントテキストを表示する場合はコマンドはこのようになります：

```
COMMENT/rept, ~~04 一部のコメントテキスト
```

ｵﾍﾟﾚｰﾀ

Operator

ソフトウェアがコメント・コマンドを実行する場合、**オペレータ**オプションは、オペレータにコメント文字列を表示します。

演算子 オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスで、**オペレータ**のオプションを選択します。
4. [**コメントテキスト**]ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. [**OK**]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
COMMENT/OPER,TOG1,FULL SCREEN=TOG2,AUTO-CONTINUE=TOG3,
comment text
```

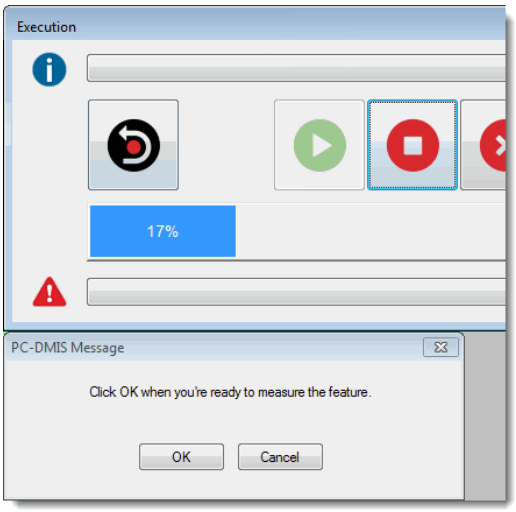
TOG1 - この [はい/いいえ] フィールドによってユーザーは検査レポートにこのコメントが表示されるかどうかを指定できます。

TOG2 - この YES/NO フィールドはコメントが表示されて全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを定義できます。

TOG3 - このはい/いいえフィールドはコメントがカウントダウンタイマーを使用するかどうかを定義し、タイマーが 0 に達する場合には自動的に実行を継続します。カウントダウンタイマーが 0 に達する場合には、**OK** ボタンをクリックしたように、PC-DMIS が継続します。

機能の仕方

PC-DMIS が測定ルーチンを実行する場合、**実行** ダイアログの下にメッセージボックスが適切なコメントが表示されます。



「PC-DMIS のメッセージ」ダイアログ ボックスのサンプル

PC-DMIS では、このメッセージを編集することはできません。**OK** ボタンをクリックして実行を継続します。測定ルーチン実行をキャンセルするには[**キャンセル**]をクリックします。

レポート

レポートオプションは、検査レポートにテキストを送信します。

レポート オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスで、**レポート**のオプションを選択します。

4. **[コメントテキスト]**ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. **[OK]**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

PC-DMIS の測定ルーチンを実行する時には、これらのメッセージは表示されません。しかし、PC-DMIS は、印刷時に、これらのコメントをインスペクション レポートに送付します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
COMMENT/REPT
,comment text
```

検査レポートにおいてダッシュ記号 (またはその他の文字) をテキストの下に入れる必要がある場合、2 番目のコメント行を使用して追加の行を作ってください。

例を以下に示します。

```
COMMENT/REPT,
検査レポートのコメント
COMMENT/REPT,
-----------------------------------
```

この一連のコマンド行は、検査レポート内に、検査レポートのコメント行を作成します。

ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ

Document

ドキュメントオプションはテキストを内部測定ルーチンに追加します。そのただ一つの使用はプログラマノートを格納することです。それは、検査レポートに現われません (もし、**レポート中の表示**をマークしなければ)。また、実行された時、それは何も表示しません。

ドキュメントオプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスで、**ドキュメント**のオプションを選択します。
4. [**コメントテキスト**]ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. [**OK**]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウ のコマンドラインは、以下のようです:

```
$$ TOG1,
コマンドのテキストを編集してください。!
```

TOG1 = このはい/いいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

測定ルーチンが (おそらく PC-DMIS の新バージョンから) サポートされないコマンドを含んでいる場合、ユーザーが測定プログラムを開いたとき、PC-DMIS はそれらのコマンドをこのコメントタイプに変換します。詳しくは「基本的なファイルオプションの使用」章にある「名前を付けて保存」を参照して下さい。

入力

インプット オプションは「**演算子** 」に類似しており、これを用いると、測定ルーチンが実行されり時にテキストを表示します。以前に入力されたテキストに伴うメッセージボックスの表示に加えて、コメント ボックスをも表示します。これにより、インスペクション レポートに記入する、*数値* 情報を入力することができます。

このオプションは、測定ルーチンの実行中に、パーツ番号、または、通し番号を入力する場合、大変役に立ちます。

インプット オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスで、**入力**のオプションを選択します。
4. [**コメントテキスト**]ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. [**OK**]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプションに対する編集ウィンドウのコマンドラインは以下のようになります:

```
comment ID = COMMENT/INPUT, TOG1,Full Screen=TOG2,
comment text
```

TOG1 = このはい/いいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG2 = このはい/いいえ フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを指定できます。

入力がコマンドの左側に指定された変数に割り当てられます。この変数は文字列型に強制的に変換されます。その後、<COMMENT ID>.INPUT というシンタックスを用いることにより、この変数は式が許容されるところであればどこでも、使用が可能です。例えば、コメント ID が C１の場合、以下のようにこの変数を別の変数へ引き渡すことが可能です：

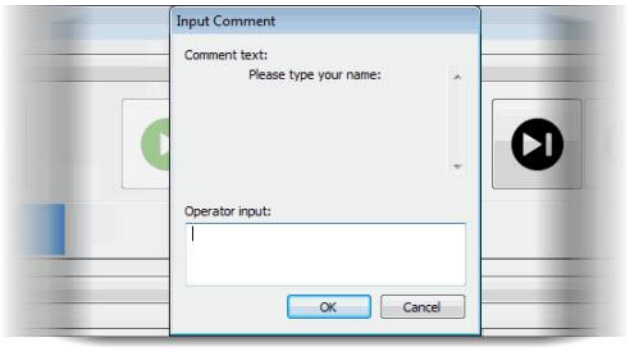
```
C1 = COMMENT/INPUT,NO,Full Screen=NO,
```

「氏名を入力して下さい：」

ASSIGN/V1=C1.INPUT

機能の仕方

実行中に、このメッセージボックスは必要な番号(シリアル番号など)を入力するプロンプトを表示し、その後、検査レポートにこの値が表示されます。このプロンプトは**実行**ダイアログボックスのトップに表示されます:



「コメント入力」ダイアログ ボックスのサンプル

作業者が自分のテキストを入力して、**OK** をクリックすると、 PC-DMIS はコメント変数にそれを格納します。変数は、ID.INPUT （デフォルトで変数の ID は C1（最初の入力コメント）、C2（2 番目の入力コメント）などです）。作業者が[**キャンセル**]をクリックした場合、実行が停止されます。

はい/いいえ

Yes / No

はい / いいえオプションは**オペレータ**オプションと同様に機能し、これによってユーザーは測定プログラム実行時にテキストを表示することができます。さらに、**はい**、**いいえ**および**取り消し**ボタンが、**PC-DMIS メッセージ**ダイアログボックスの下部に表示され、これによってオペレータは簡単な質問に対して「はい」または「いいえ」で答えることができます。

はい/ いいえ オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。

2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスから、**はい / いいえ**のオプションを選択します。
4. [**コメントテキスト**]ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. [**PC-DMIS メッセージ**]ダイアログボックスで[はい]または[いいえ]をクリックせず、設定した時間の経過後に測定ルーチンが自動実行するようにしたい場合は、[**実行を自動継続**]チェックボックスをオンにします。ここで、[**実行遅延（秒）**]ボックスに遅延の秒数を入力できます。詳しくは、「自動継続の実行」を参照してください。
6. [**OK**]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
comment ID = COMMENT/YESNO,TOG1,FULL SCREEN=TOG2,AUTO-
CONTINUE=TOG3,
```

コメント テキスト

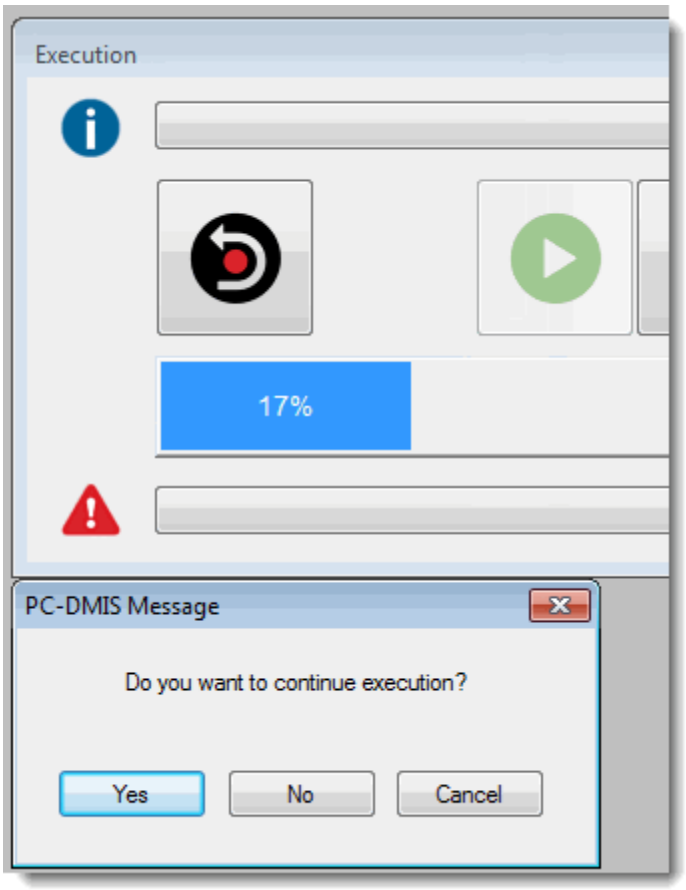
TOG1 = この YES/NO フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG2 = この YES/NO フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを指定できます。

TOG3 - この[はい/いいえ]フィールドはコメントがカウントダウンタイマを使用するかどうかを決定し、タイマーが 0 になると自動的に実行を継続します。時間が 0 になるまでにオペレータがボタンをクリックしないと、オペレータが**はい**ボタンをクリックしたとみなして測定プログラムの実行が継続します。

機能の仕方

実行中に、 **PC-DMIS メッセージ** ダイアログ ボックスが**実行**ダイアログボックスの下に表示されます。これによって、下記のようにオペレータは**はい**、**いいえ**または**取り消し**をクリックすることができます。



ボタンの付いた PC-DMIS メッセージダイアログボックスの例

オペレータがボタンをクリックするまで実行が一時停止します。答えは変数に格納されます。変数が C1.INPUT です。

オペレーターが選択した答えには、そのコメントの ID を伴う式を用いて、アクセスすることができます。

例 1: コメントに C1 の ID があり、オペレータが**はい**ボタンをクリックすると、式「C1.INPUT」には値「はい」が入ります。オペレータが**いいえ**ボタンをクリックする

と、式「C1.INPUT」には値「いいえ」が入ります。このオプションは「はい」または「いいえ」文字列の応答によって分岐またはループさせたいユーザーには有用です。

例 2: コメントに C1 の ID があり、オペレータが**はい**ボタンをクリックすると、式「C1.INPUTVALUE」には値 1 が入ります。オペレータが**いいえ**ボタンをクリックすると、式「C1.INPUTVALUE」には値 2 が入ります。このオプションは整数 1 または 2 応答によって分岐またはループさせたいユーザーには有用です。

どの場合にも、オペレータが[**キャンセル**]をクリックすると測定ルーチンの実行がキャンセルされます。

INPUT 式を使って「YES / NO」コメントの値をテストするために条件分枝ステートメントを使用する場合、そのテストは大文字の「YES」値または、「NO」値を検索します。小文字の「yes」または「no」では機能しません。(測定ルーチンの分岐について詳しくは、「フローコントロールを使用した分岐」の章を参照してください。)

測定値

測定値 オプションはプローブ測定値ウィンドウの下部にコメントテキストを表示します。この作業のため、**プローブ測定値セットアップ**ダイアログ ボックスに**プロンプト履歴を表示** チェックボックスを選択する必要があります。

測定値 オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスから、**入力**のオプションを選択します。
4. [**コメントテキスト**]ボックスに、コメントテキストを入力します。

5. **[OK]**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
COMMENT/READOUTS,TOG1,
comment text
```

TOG1 = このはい/いいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

オプションの設定の多くな情報について、「カスタム設定」章の「計測値ウィンドウの設定」を参照してください。

プローブ測定値ウィンドウ上の使用に関する説明については、「その他のウィンドウ、エディタ、ツール等の使用」の章にある「プローブ測定値ウィンドウの使用」を参照して下さい。

レポートの表示

☑ Display On Report

このチェックボックスはレポートウィンドウで生成した最終報告書にコメントと任意の送信されたテキスト(例えば、オペレータのコメントの使用など)が表示されるかどうかを定義します。選択した場合、レポートにコメントを表示するかどうかを指定するコメントの YES/NO トグルフィールドははいに設定されます。

レポート コマンドのタイプを選択する場合、このチェックボックスは隠されます。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
COMMENT/TOG1,TOG2,
comment text
```

TOG1 = レポート以外の任意のコメントタイプ。

TOG2 = TOG2 = このはい/いいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

自動継続の実行

自動的に実行を継続: このチェックボックスでは、PC-DMIS が実行中に表示するコメントが指定秒数経過後に閉じるかどうかを定義できます。デフォルトでは、このチェックボックスは選択されません。

コンピュータから離れたところで測定装置を使用しており、一定時間後に実行が継続されることを望む場合、オペレータにとってこれは便利な機能です。このチェックボックスを選択すると、**実行遅延 (秒)**ボックスが使用可能になります。

実行遅延 (秒): このボックスでは PC-DMIS がコメントを表示している間、何秒間実行を遅延するかを定義できます。1 ~ 600 秒の任意秒数を指定できます。

- 動画ファイルで実行遅延を使用し、動画の再生時間が遅延時間を超える場合、PC-DMIS は続行する前に動画の再生が終了するのを待機します。
- 動画時間が指定した実行遅延時間より短い場合、実行遅延がゼロへカウントダウンするまでコメントが表示されたままになります。

実行中にソフトウェアは、括弧内の**オペレータ**コメントタイプの **OK** ボタンにカウントダウンタイマーを表示します。

Yes/No コメントタイプの場合、これは **Yes** ボタンに表示されます。

タイマーがゼロになったら：

- **オペレータ**コメントでは、オペレータが **OK** をクリックしたかのように実行が継続されます。

- **はい/いいえ**コメントでは、オペレータが**はい**をクリックしたかのように実行が継続されます。

全画面表示

このチェックボックスは、コマンドが実行されれば全画面を満たす拡大サイズにコメントテキストを表示するかどうかを判定します。これは**入力**、**はい / いいえ**、また**演算子**コメントで作業します。ユーザが他のコメント・タイプを選択すれば、PC-DMIS はこのチェックボックスを無効にします。同様に、このチェックボックスがマークされた場合、表示されるコメント内の特定のメディア (画像や映画) を表示するオプションがあります。その場合には、**メディアのインポート** と**メディアの移動** が有効になります。それらのボタンの情報については、「メディアのインポート」か、または「メディアを削除」を参照してください。

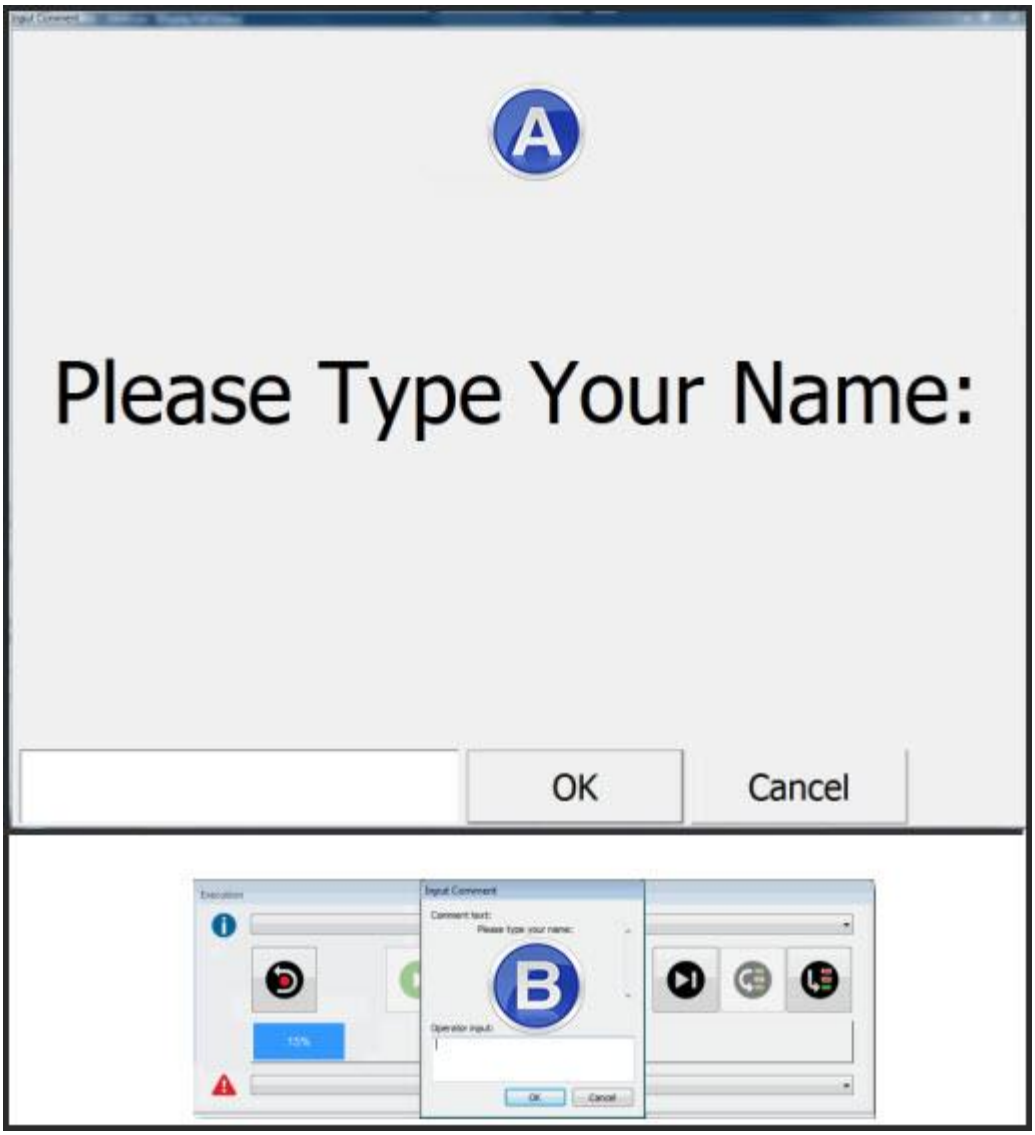
このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
COMMENT/TOG1,TOG2,Full Screen=TOG3,
comment text
```

TOG1 = INPUT, YESNO または OPERATOR コマンドです。

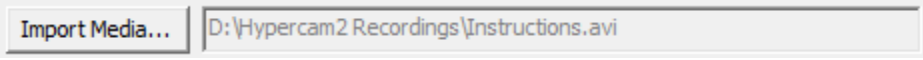
TOG2 = このはい/いいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG3 = このはい/いいえ フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを指定できます。



サンプル画像はフルスクリーン入力コメント（A）と通常のサイズのコメント（B）を並んで比較するのを表示します。

メディアのインポート



このボタンをインポートするには、最初に**全画面表示**チェックボックスをマークする必要があります。

[**メディアのインポート**]ボタンを使用すると、有効なメディアファイルを参照し、そのファイルを測定ルーチンに*インポート*できます。測定ルーチンがそのコメントを実行すると、PC-DMIS はそれを全画面コメント内に表示します。**OK** をクリックする場合、このファイルは測定ルーチンに*インポートされて*また測定ルーチンの*コンポーネント*になります。これにより、測定ルーチンを別のコンピュータシステムまたはディレクトリに移動するときにイメージファイルとビデオファイルを移動するのを忘れる必要がなくなります。しかし、ユーザが含めるように選択したメディア・ファイルのタイプと数に応じて、それは測定ルーチンサイズを全く大きくすることもできます。

選択されたファイルがボックスに**メディアのインポート** ボタンの右側に表示します。

有効なイメージファイルの種類は以下のようです：

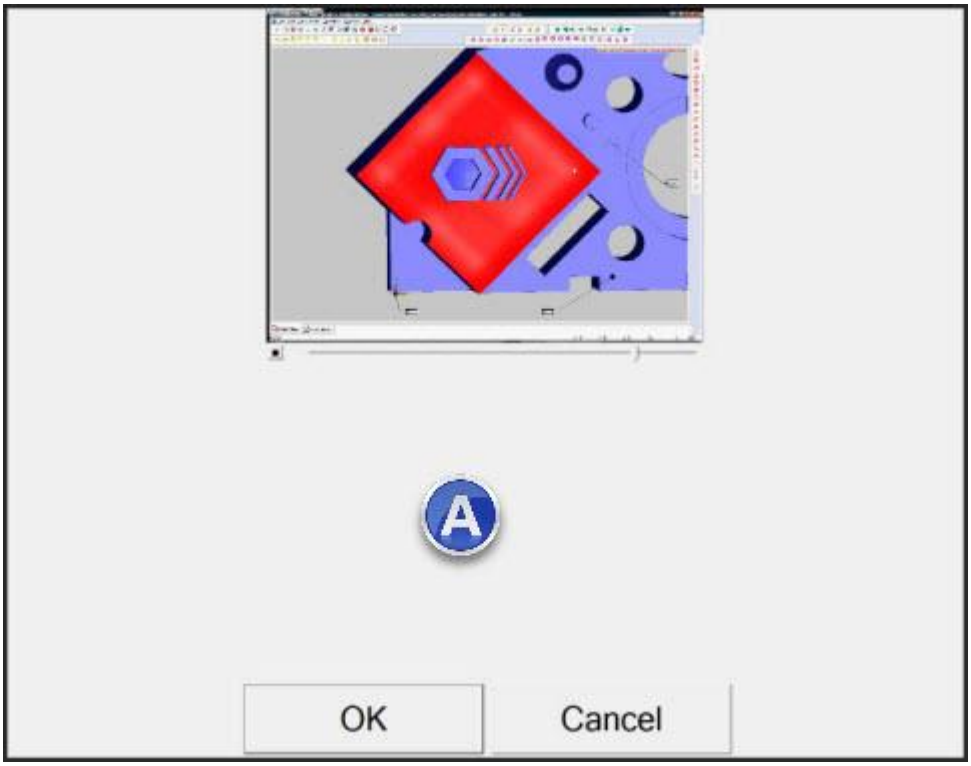
- .bmp
- .png
- .jpg

有効な移動ファイルの種類は以下のようです：

- .avi

メディアコンテナについて

PC-DMIS はメディアファイルを含むコメントを実行する場合、ひとつのコメントが メディアファイルを含むコメントを実行し、それは「コンテナ」というフルスクリーンのコメント内の部分に適当することに表示されたメディアをサイズします。これは、PC-DMIS がイメージまたはムービーのサイズをコンテナ内に収めることを意味します。



このサイズの画像がフルスクリーンオペレータのコメントを表示します。コメントの上部にあるメディアコンテナがコンテナ内に適用した映画のサイズが含まれます。

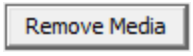
（A）- 上のビデオに示されているように、パートの上部に4回ヒットします。

コンテナ下の水平スライダがロードムービーファイルの現在のプロセスを表示します。このスライドをドラッグしてムービーのタイムラインによってさまざまなスポットにジャンプします。

■このアイコンは再生からムービーファイルを停止します。

▶このアイコンが停止されたムービーファイルを再生します。

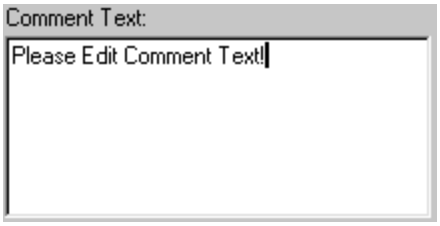
ﾒﾃﾞｨｱの削除



全画面表示 チェックボックスを一回目にマークする場合、これは有効になります。

メディアを移動 ボタンがコメントからメディアを移動します。これが測定ツーチンからメディアを移動したら、Windows ファイルシステムの制限の原因を注意してメディアをインポートする前にそれが 本来です。これらのケースでは、 **ファイル| 名前を付けて保存** をしてその原件ファイルサイズで測定ルーチンを得るために異なるファイル名に測定ルーチンを保存します。

コメント テキスト



[**コメントテキスト**] ボックスには、表示したいテキストが以下に示すようなコメント形式オプションで含まれています：

- オペレータ
- レポート
- 入力
- 文書
- はい/いいえ
- 読み取り

ASCII 文字の挿入

ASCII 文字ボタン・セット

コメントのダイアログボックス上のこれらのボタンは、 **[コメントテキスト]**ボックスにいくつかのよく使用される ASCII 文字を挿入します。

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

ユーザはこれらのレポートを測定ルーチンに埋め込むことができます：

- レガシーレポート(ハイパービュー レポート)
- レポート テンプレート
- カスタムレポート
- ラベル テンプレート

PC-DMIS が埋め込まれたコードを実行すると、それはレポートまたはテンプレートを起動します。その後、それを印刷したり、表示したり、および埋め込まれた項目からか、またはそこへ値を渡すことができます。

レガシーレポートは HyperView レポートエディタを使用する旧式のレポートです。PC-DMIS の 3.0、3.2、3.25、3.5、または 3.7 バージョンがこのエディタを使用していました。これらのレポートの詳細については、「レガシー (HyperView) レポートの操作」を参照してください。

レポートまたはテンプレートを埋め込むには：

1. 編集ウインドウがコマンドコードにあるのを確認してください。
2. **[挿入 | レポート コマンド]**を選択して、次のメニュー項目より目的のものを選択します。
    - カスタムレポート
    - テンプレートレポート

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

- レガシー レポート
- レポートラベル

ダイアログ ボックスが表示してレポートまたはテンプレートを選択できます。

3. 測定ルーチンに埋め込みたいレポートとテンプレートを選択してください。
4. **開く** ボタンをクリックしてこのコマンドを挿入してください。

PC-DMIS は次のコマンドの一つをカーソル位置の編集ウィンドウに挿入します：

- `REPORT/CUSTOM`
- `REPORT/TEMPLATE`
- `REPORT/LEGACY`
- `REPORT/LABEL`

REPORT コマンド

レポートコマンドオブジェクトは編集ウィンドウの `REPORT` コマンドで識別されます。

REPORT コマンド構文

REPORT コマンドは編集ウィンドウのコマンドモードで次の構文を持っています：

```
<ID> =REPORT/<TOG1>, FILENAME= <PATHWAY>, AUTOPRINT=<TOG2>,
INLINE REPORT=<TOG3>, Section=<NUM1>,REPORTMODE=<MODE>
PARAM/=
ENDREPORT/
```

<ID>
これは REPORT コマンドの ID です。

REPORT/<TOG1>
これは REPORT コマンドのタイプを変更します。これは、カスタム、レガシィ、テンプレートまたはラベルであることができます。

FILNAME=<PATHWAY>
これはレポートまたはテンプレートがロードにすることを定義します。

<PATHWAY> は目的のファイルを指す完全なファイル名のパスです。ユーザーがレポートまたはテンプレートの名前のみを使用する場合、PC-DMIS はデフォルトレポートディレクトリーの中を検索します。

AUTOPRINT =<TOG2>
<TOG2>は、PRINT、PDF 及び NO の間に切り替えることができます。それは単に REPORT/LEGACY コマンドに適応します。

AUTOPRINT=PRINT に設定すると、ハイパービューレポートが読み込まれ実行された後、デフォルトのプリンターに印刷されます。レポートはプリントジョブがスプールされた直後に閉じられ、測定ルーチンの実行が再開します。

AUTOPRINT=PDF に設定すると、ハイパービューレポートは PDF (Portable Document Format) ファイルに印刷されます。次のルールが適用されます:

- 生成された PDF ファイルはレポートまたはテンプレートファイルベース名に数字のインデックスと拡張子が付いたものになります。
- 作成されたファイルは同じディレクトリにレポートファイルとして配置されます。
- 生成されたファイル名が既存のファイルと同じ場合、一意のファイル名になるまでインデックスの値が自動的に大きくなります。

AUTOPRINT=NO に設定するとこのコマンドを実行中は何も印刷しません。

INLINE REPORT=<TOG3>
これは AUTOPRINT が PDF に設定されたレガシー (ハイパービュー) レポートのみで使用されます。ハイパービューレポート情報を、レポートウィンドウから生成されたその他のデータとともに PFD 出力形式で行に表示するかどうかを決定します。

<TOG3> は ON と OFF を切り替えます。

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

ON - このコマンドが実行され、**出力設定**ダイアログボックスが**上書き**、**自動**、または**追加**オプションによって PDF を自動生成すると、指定されたレガシー(ハイパービュー)レポートからのデータが、その他の通常のレポート出力と並んで PDF に表示されます。

プロンプトオプションが使用され、これが ON に設定されている場合、複数の PDF が生成され、1 つはハイパービューレポート用に、必要に応じて残りのレポートウィンドウの内容を含めるよう追加の PDF が生成されます。

OFF - ハイパービューレポートからのデータが、ハイパービューレポートの名前に基づいて PDF ファイルに現れます。これは**レポート印刷オプション**ダイアログ ボックスから生成された PDF には含まれません。

このオプションは、ハイパービューコマンドの AUTOPRINT オプションより優先される点にご注意ください。

旧式のハイパービューレポートについての詳細は、「レガシー (ハイパービュー) レポートを使用した操作」を参照してください。

Section=<NUM>

<NUM>はレポートまたはテンプレートが挿入されるセクションを定義します。このアイテムはテンプレートにラベルを付けるために当てはまりません。

[-1]またはデフォルト テンプレートのセクション数より多い値が入力された場合、レポートの最後に挿入されます。

REPORTMODE=<MODE>

測定ルーチンが実行され、デフォルトのレポートテンプレートが指定される場合、

それはテンプレートデフォルトのレポートを使用してレポートの生成することを開始します。一旦 REPORT コマンドに達したら、作成は指定されたレポートのモードに基づいて変更します：

<MODE> - これは SWITCH または INSERT であることができます。このモードは単に REPORT/TEMPLATE コマンドに当てはまります。

SWITCH- 別の報告コマンドが検出されるまでまたは測定ルーチンを終了する時まで、これはレポートテンプレートを切り替えてこのコマンドの 1 つを使用します。

INSERT - これは以前に実行されたコマンドのレポートデータを生成します。それはテンプレートをこのコマンドに使用します。レポートコマンドが終了した時には、 PC-DMIS はテンプレートのデフォルトのレポートを使用してレポートデータの残りの部分を生成します。

PARAM/

PARAM/ オプションで、PC-DMIS 式をレポートまたはレポート テンプレートの変数またはプロパティをマップできます。このオプションは REPORT/LABEL コマンドに当てはまりません。

PARAM/ オプションの構文は:

`PARAM/{オブジェクトまたは変数名}={PC-DMIS の式}`

「NumBoltHoles」という名前のレポートにグローバル変数があるとします。次の PARAM/ オプションは PC-DMIS の式を NumBoltHoles: `PARAM/NumBoltHoles=360.0/angle` にマッピングします。

エディタで変数を変更すると PC-DMIS の変数も変更されます。

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

次の PARAM /オプションを使用すると、NumBoltHoles 変数は numBolts 変数と等しいに設定されます。HyperView レポート内を HyperView 変数へ変更して NumBoltHoles は PC-DMIS 変数 numBolts に反映されます:
`PARAM/NumBoltHoles=numBolts`

実行後、レポートテンプレートまたは HyperView レポートにパラメータを渡すことによって変更したすべてのオブジェクトは、何らかの方法でレポートを再描画または変更すると実行前の内容に戻ります。これは、パラメータをテンプレートまたはレポートに引き渡した結果を保持したい場合、レポート変更前に印刷しなければならないことを意味します。これを行うには AUTOPRINT パラメータを使用するか、レポート ウィンドウから直接印刷します。

詳しくは PARAM コマンドを使用して、PC-DMIS の式をオブジェクトプロパティへマッピングするを参照してください。

`REPORT/CUSTOM` コマンドで F9 を押して、カスタムレポートエディタでカスタムレポートを開くことができます。

REPORT/TEMPLATE レポートの生成

このコマンドに到達するまでは、通常通りデフォルトのレポートが生成されます。このコマンドが実行されると、特別なテンプレートを使用して、現在のレポート内の新しいセクションに全ての測定ルーチンのコマンドとは切り離されたレポートが作成されます。PC-DMIS が新しいレポートセクションを作成した後、その点から前方元のレポートにそれは前のレポートに切り替わり、コマンドを生成するのを継続します。

PARAM コマンドを使用して、PC-DMIS の式をオブジェクトプロパティへマップングすること

PC-DMIS の式は、編集ウィンドウの PARAM/コマンドを使用してプロパティ オブジェクトにマッピングすることが可能です。オブジェクトのプロパティをマッピングするための PC-DMIS 式の構文は次の通りです:

PARAM/{object code}.{property name}={PC-DMIS expression}

以下の PARAM/ オプションはオブジェクトの BorderStyle プロパティを変更します、Text1: `PARAM/Text1.BorderStyle=1`

外部オブジェクトの挿入

レポートに外部オブジェクトを追加するには、 **挿入| レポートコマンド| 外部オブジェクト** メニュー項目を選択します。詳細については、「外部要素の追加」章を参照してください。

印刷コマンドの挿入

PC-DMIS は、`PRINT/REPORT` コマンドを実行する場合、測定ルーチンのその点までの測定結果を、定義された出力先 (プリンターまたはファイル) に送信します。PC-DMIS がこのコマンドを実行した後に、それがレポートウィンドウの内容をクリアしてまた唯一の測定結果のみはレポートウィンドウに表示されます。しかし、常に**レポート**ツールバーの**レポートモードを表示**アイコンをクリックしてレポートを完全表示できます。

[編集]ウィンドウに `PRINT/REPORT` コマンドを挿入するには、次の手順を実行します：

1. 編集ウィンドウが表示されないと、**表示|編集ウィンドウ**を選択して編集ウィンドウを表示します。
2. **[表示|コマンドモード]**を選択して、編集ウィンドウをコマンドモードにします。
3. **挿入| レポートコマンド| 印刷コマンド**メニューオプションを選択します(または目的の場所で **PRINT** を入力して TAB を押します)。PC-DMIS は設定できるそれぞれのオプションを備えた `PRINT/REPORT` コマンドを挿入します。
4. コマンドを設定するには、コマンドで F9 キーを押し、**出力設定**ダイアログボックスを使用します。詳細は、「PRINT/REPORT コマンドの編集」を参照してください。

`PRINT/REPORT` コマンドは測定ルーチンからのレポートの印刷のコントロールに使用されます。PC-DMIS がこのコマンドを実行する場合、報告書は生成され、指定された出力目的地に送られます。

PC-DMIS が `PRINT/REPORT` コマンドの*後*でレポートヘッダを処理する方法をコントロールするには、「測定結果のレポート」章の「テキストレポートの編集」トピックにおける「印刷コマンドの後のヘッダ」エリアを参照してください。

関連トピック：

ループでの印刷コマンドの使用

PRINT/REPORT コマンド用シンタックスの理解

コマンドのシンタックスは以下のようになります:

```
PRINT/REPORT,EXEC MODE=END,$
    TO_FILE=OFF,TOG1,AUTO OPEN=OFF,$
    TO_PRINTER=OFF,COPIES=,$
    TO_DMIS_REPORT=OFF,FILE_OPTION=TOG2,FILENAME=,$
```

```
REPORT_THEORETICALS=ALL,REPORT_FEATURE_WITH_DIMENSIONS=Y
ES,$
TO_EXCEL=OFF,TOG3, AUTO OPEN=OFF,$
PREVIOUS_RUNS=DELETE_INSTANCES
```

EXEC MODE = DMIS と PC-DMIS は、レポート データを異なる方法で管理するので、このオプションを選ぶと、当ソフトウェアが、どのように、いつ、レポート データを DMIS、及び、PC-DMIS 出力ファイルに送付するか、コントロールすることができます。DMIS では、ルーチンが実行される *前に*、最初に、出力ファイル名と他の印刷パラメータの定義が要求されます。一方、PC-DMIS は、測定ルーチンが実行された *後まで*、レポート データの送付先が決められるのを待ちます。このオプションを選ぶと、両方のフォーマットに対応できます。これには、2 つの値のうち、 **冒頭**、または、 **末尾**のいずれかを選択することが必要です。

開始

それがルーチンのエンドまたはそのたの PRINT/REPORT コマンドに出会いまたこれは PC-DMIS に印刷を開始するのを指示します。DMIS ファイルをインポートする場合、それは印刷レポートコマンドを持ち、それはその初期値として **START** を使用します。

末尾

これは、この PRINT/REPORT コマンド以前に、既に実行されたものすべてを印刷するよう、PC-DMIS に指示します。レポート印刷コマンドを伴う DMIS をインポートせず、かわりに PRINT/REPORT コマンドを PC-DMIS 内から挿入すると、それは **END** を初期値として持ちます。

ユーザーの測定プログラムが複数の PRINT/REPORT コマンドを含む場合、PC-DMIS はそのいくつかのコマンドを印刷しない場合があることに注意して下さい。例えば、最初の PRINT/REPORT コマンドが **END** を使用し、2 番目のレポート印刷コマンドが **START** を使用する場合、PC-DMIS はその間のすべてを印刷するわけではありません。

また、PRINT/REPORT コマンドが **START** を使用しますが、直後のレポート印刷コマンドが **END** を使用する場合、最初の PRINT/REPORT コマンドが、印刷バッファを空にするので、2 番目の印刷では、何も印刷されません。

TO_FILE= このオプションを使用して印刷されたレポートがファイルに発送されるまたはされない (**ON**) または(**OFF**)のをインジケータします。

TOG1 この値は、印刷出力を.rtf、.pdf、または.txt ファイルに送信するときの動作を制御します。利用可能なオプションは **APPEND / OVERWRITE / AUTO / PROMPT** です。選択されるオプションによって、異なる情報が表示される可能性があります。

APPEND

このオプションを使用して指定したファイル名にレポート情報を追加します。**APPEND** オプションが選択された場合、たとえば、APPEND=D:\REPORTS\FILE001.RTF のように、このキーワードの後にはファイル名フィールドが続きます。完全パスの指定が必須です。それ以外の場合、PC-DMIS は、測定ルーチンと同じディレクトリだと推測します。また、ファイルが既存しない場合、PRINT/REPORT コマンドが実行された時点でそのファイルが作成されます。

OVERWRITE

指定されたファイル名にこのオプションを使用してレポート情報を上書きします。**OVERWRITE** オプションが選択された場合、たとえば、OVERWRITE=D:\REPORTS\FILE001.RTF のようにこのキーワードの後にはファイル名フィールドが続きます。ファイルが既存しない場合、

PRINT/REPORT コマンドが実行された時点でそのファイルが作成されます。経路を指定しないと、デフォルトで測定ルーチンのフォルダになります。このフィールドにパスがない場合は、これを変数名に設定できます (下の例を参照してください) 。

AUTO

このオプションを使用すると PC-DMIS は自動的にレポートのファイル名を作成します。[**AUTO**]オプションが選択されると、このキーワードには例えば AUTO=10 のように数値フィールドが後に続きます。作成されたファイル名は、当該の測定ルーチンと同様の名称に、数字インデックスと.RTF 拡張子を加えたものになります。また、作成されたファイルは、測定ルーチンと同じディレクトリに置かれます。生成されたファイル名と同じ名前のファイルが存在する場合、[**AUTO**]は一意のファイル名が見つかるまでインデックスの値を増加します。

プロンプト

このオプションを使用すると、「**名前を付けて保存**」ダイアログボックスが表示されて、オペレーターにレポート情報が記入されたファイル名を請求します。

AUTO OPEN = このオプションを使用して、PRINT/REPORT コマンドの実行後に PC-DMIS が生成された.rtf、.pdf、または.txt ファイルを開くかどうかを決定します。これは**オン**か、または、**オフ**のいずれかとなるかもしれません。

TO_PRINTER= このオプションを使用してレポートをプリンターに発送するかどうか「(**ON**) または(**OFF**)」を示します。

COPIES =この値は、プリンタに送信するには、レポートのコピーの数を決定します。

TO_DMIS_REPORT= このオプションを選択すると、PC-DMIS がレポートを **FILENAME** で指定された DMIS 出力ファイル (.dmo)に送信するかどうかを決定できます。これは**オン**か、または、**オフ**のいずれかとなるかもしれません。

FILENAME= このオプションを使用して DMIS 出力ディレクトリの場所とファイル名を指定します。**TO_DMIS_REPORT** を **ON** に設定した場合、PC-DMIS は指定したファイルにレポートデータを保存します。例えば、`FILENAME=D:\PCDMISREPORTS\MYDMIS.DMO` であれば、PC-DMIS はドライブ D の PCDMISREPORTS フォルダーの MYDMIS.dmo ファイルに報告書データを保存します。経路を指定しないと、デフォルトで測定ルーチンのフォルダになります。経路を指定しないと、デフォルトで測定ルーチンのフォルダになります。パスがない場合は、これを変数名に設定できます。

FILE_OPTION = TOG2 TOG3 に、DMIS ファイル出力の次のファイルオプションを設定できます：

APPEND
これは DMIS のエンドに **FILENAME** に指定されたファイルのレポートデータを追加します。

OVERWRITE
これは最新のレポートデータで **FILENAME** に指定された DMIS ファイルを上書きします。

INDEX
これは、**FILENAME** で指定した DMIS ファイル名の後に測定ルーチンの実行値を増加して追加します。例えば、`FILENAME=MYDMIS.DMO` の場合には、次の実行上で、ファイル名は 1 で増加して、mydmis001.dmo、mydmis002.dmo、mydmis003.dmo などのようになり、**AUTO=**オプションに似ています。

REPORT_THEORETICALS= これは、PC-DMIS が、DMIS 出力ファイル内の理論値をどのようにレポートするか、を指示します。

すべて
PC-DMIS は、測定値と共にすべての理論値を出力 DMIS ファイルに出力します。

なし

理論値はレポートに記入されません。

IMPORT_SETTINGS

明らかに、元来の DMIS ファイルで出力された理論値のみが、レポートに出力されます。

REPORT_FEATURE_WITH_DIMENSIONS= これは whether or not PC-DMIS が出力ファイルに測定した要素と関連付けられている公差一緒にを保持するかどうかを定義します。それは**はい** または**いいえ**をとります。

はい

DMIS レポートのファイルに、PC-DMIS は、測定結果を、要素自体に関連する各測定結果に対する公差の直前に書き込みます。要素が任意の公差と関連付けられていない場合には、PC-DMIS は何の出力は作成しません。

NO

DMIS レポートのファイルに、ただ今、要素が測定された際に、PC-DMIS は測定の実績を記録し、PC-DMIS 関連付けられた寸法を実行することの後ではありません。

TO_EXCEL=これは、PC-DMIS が Microsoft Excel ファイルへ出力を送るかどうか判断します。それは **ON** か **OFF** のいずれかをとります。

オン

excel ファイルは、この点に対して測定ルーチンのすべてのアイテムのために生成されます。

オフ

この印刷コマンドによって生成された Excel ファイルがありません。

Excel の出力オプションを修正せるには、このコマンドの F9 キーを押して、**Excel** タブのオプションを変更します。

追加の注記:

- これが **ON** に設定されましたが、測定ルーチンの「**出力設定**」ダイアログボックスは **Excel 出力**チェックボックスがクリアされた場合、PC- DMIS は、この特定のコマンドの Excel を生成します。
- これが「**OFF**」に設定されますが、測定ルーチンの「**出力設定**」ダイアログボックスが **Excel の出力**]チェックボックスにマークをオンにしていされている場合は、 Excel ファイルは、実行の最後に生成されます。
- これが **ON** に設定されて、測定ルーチンの**出力の構成**ダイアログボックスの **Excel 出力**チェックボックスもマークされている場合は、生成された 2 つの出力ファイル、それぞれに 1 つで終わることがあります。この場合、`PRINT/REPORT` コマンドに従う寸法は異なるファイルの中で生成されます。
- ループは excel 出力で支援されます。ループを通して「`PRINT/REPORT`」コマンドを実行し、Excel 出力が追加に設定される場合、それは、Excel ファイル内の追加のワークシートなどの目次を生成します。
- Excel 出力ファイル出力の小数点以下の桁数を変更するには、ユーザはただ `PRINT / REPORT` コマンドの前に `DISPLAYPRECISION` コマンドを挿入することができます。

TOG3 = この値は、印刷出力を Excel ファイル (.xls、.xlsx、csv) に送信するときの動作を制御します。トグルオプションの詳細については、上記の同様の TOG1 項目を参照してください。

FILENAME= このオプションを使用して Excel ファイルの出力ディレクトリの場所とファイル名を指定します。**TO_EXCEL_OUTPUT** を **ON** に設定した場合、PC-DMIS は指定されたファイルにレポートデータを保存します。例えば、

FILENAME=D:\PCDMISREPORTS\MYEXCEL.XLS であれば、PC-DMIS はドライブ D の PCDMISREPORTS フォルダーの MYEXCEL.xls ファイルに報告書データを保存します。経路を指定しないと、デフォルトで測定ルーチンのフォルダになります。このフィールドにパスがない場合は、これを変数名に設定できます (下の例を参照してください) 。

AUTO OPEN = このオプションを使用して、PRINT/REPORT コマンドの実行後に PC-DMIS が生成された Excel ファイル (.xls, .xlsx, .csv)を開くかどうかを決定します。これは**オン**か、または、**オフ**のいずれかとなるかもしれません。

PREVIOUS_RUNS =これをループ内からの PRINT/REPORT コマンドに使用します。要素が、単一の実行中に一度以上測定される場合、この要素の以前の測定データが保存されます。これらのインスタンスを削除 (**DELETE_INSTANCES**) または保持 (**KEEP_INSTANCES**) することができます。

FILENAME の変数

この例では、V1 の変数は C1.INPUT に格納されている Input コメントの値をとります。Excel 出力の FILENAME ステートメントは、Excel ファイルのフォルダとファイル名に変数 V1 の値を使用します：

```
C1=COMMENT/INPUT,YES,FULL SCREEN=NO,
Excel レポートのパスとファイル名を入力します：
ASSIGN/V1=C1.INPUT
PRINT/REPORT,EXEC MODE=END,$
TO_FILE=OFF,AUTO=1,AUTO OPEN=OFF,$
TO_PRINTER=OFF,COPIES=1,$
TO_DMIS_REPORT=OFF,FILE_OPTION=INDEX,FILENAME=,$
REPORT_THEORETICALS=NONE,REPORT_FEATURE_WITH_DIMENSIONS=NO,$
TO_EXCEL=ON,OVERWRITE,FILENAME=V1,AUTO OPEN=ON,$
PREVIOUS_RUNS=DELETE_INSTANCES
```

例えば、オペレータが入力コメントに D:\Temp\MyReport.xls と入力した場合、PC-DMIS はそのディレクトリ及びレポート名に Excel データを保存します。

PRINT/REPORT コマンドの編集

出力設定ダイアログボックスで PRINT/REPORT コマンドオプションを編集できます。

1. PRINT/REPORT コマンドラインの上にカーソルを置きます。
2. [F9]を押します。
3. 必要に応じて、変更を行って下さい。
4. [**OK**]をクリックします。

PC-DMIS が、これまでの変更内容に合うよう、そのコマンドを更新します。変更のコマンドテキスト自体に視覚的な表示が常に表示されるとは限りません。

異なる出力構成ダイアログボックスについて

PC-DMIS は、次の場所で[**出力設定**]ダイアログボックスを使用していることに注意してください。

ファイル | 印刷 | レポート ウィンドウの印刷設定から

そのメニューのメイン**出力設定**ダイアログボックスでは、PRINT/REPORT コマンドを挿入または変更*しません*。代わりに、レポートの全体の印刷デフォルトを制御します。PRINT/REPORT コマンドとは異なり、メインダイアログボックスは、測定ルーチンの実行が完了したときの印刷のみに影響します。(ダイアログ ボックスの様々なオプションの情報に「基本オプションファイルの使用」の「レポートウインドウの出力及びプリンターオプションの設定」を参照してください。

各 PRINT/REPORT コマンドについて

これらのコマンドのいずれかで F9 キーを押すと、その特定の**出力設定**ダイアログボックスが開きます。

- ユーザーは PRINT/REPORT コマンドを測定プログラムで複数回に使用することができます。
- 各 PRINT/REPORT コマンドは異なる出力を持つことができます。
- 各 PRINT/REPORT コマンドは、メイン**出力設定**ダイアログボックスに含まれる情報の一意のインスタンスです。したがって、メインダイアログボックスから選択されたオプションは、PRINT/REPORT コマンドとは関係ありません。

書式供給コマンドの挿入

PC-DMIS は FORMFEED コマンドを編集ウィンドウに挿入できます。FORMFEED コマンドがマークして実行された場合、このコマンドで、レポートの印刷ページをプリンタから排出されるのをさせます。ファイルに印刷している場合、FORMFEED コマンドが影響ありません。

編集ウィンドウ内で FORMFEED コマンドを挿入するには：

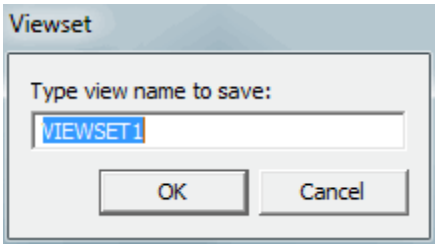
1. 編集ウィンドウを開いて下さい (**ビュー | 編集ウィンドウ**)。
2. **編集ウィンドウ**ツール バーから**コマンド モード**アイコンをクリックして、PC-DMIS をコマンドモードに配置します。
3. **挿入| レポートコマンド| フォームのフィード**メニューオプション(または目的の場所で FORMFEED を入力して TAB を押します)を選択します。PC-DMIS は FORMFEED コマンドを表示します。

ビューセットの利用

さまざまなグラフィック表示のウィンドウ表示 (「ビューセットと呼ばれる 」) を作成して保存でき、後で測定ルーチンに挿入されるコマンドを使用してリコールすることができます。ビューセットは CAD モデルのオリエンテーション、ID ラベルの可視性と位置、およびシェーディングを保存します。**ビューセットの作成**メニューオプションで、測定ルーチンにビューセットの無制限な数を作成できます。ユーザが望まれているのと同じくらい頻繁に複数のビューセットを思い出すことができます。

ビューセットを作成するには:

1. 必要に応じてビューを設定します。**編集| グラフィック表示ウィンドウ| セットアップ**を表示して、[**表示の設定**]ダイアログボックスを使用して、グラフィック表示ウィンドウでパートのズームと回転を変更します。これを行う方法については、CAD 表示の編集章の「画面ビューの設定」トピックを参照してください。
2. **挿入 | レポート命令 | ビューセットの作成**を選択するか、または**画像モード**ツールバーから、**ビューを作成** ( ) を選択します。小さな[**ビューセット**]ダイアログボックスが開き、[保存するビュー名を入力]というプロンプトが表示されます。このダイアログボックスが VIEWSET1 ではじめるデフォルトの名前を含み、後続の表示設定の番号を増加します (VIEWSET2、VIEWSET など) :



デフォルト名を伴う、「ビューセット」ダイアログ ボックス

3. ボックス内に、ご希望の画像用名称をタイプ入力して下さい(19 字に制限)。

4. **OK** ボタンをクリックするか、または「Enter」キーを押してて下さい。
   <NAME>=VIEWSET コマンドを挿入して PC-DMIS は現在のビューセットを選択した名と等しいのを設定します、<NAME> が定義されたビューセット名です。

ビューセットを呼び出すには:

作成されたビューセットをリコールするには、以下のいずれかの操作を行います：

- [設定]ツールバーから、**ビュー**一覧を選択します。
- PC- DMIS Portable の **QuickMeasure** ツールバーから、**ビューをリコール**を選択します( )。
- メニューバーから、「**挿入|レポートコマンド|ビューセットをリコール**」を選択します。

呼び出すビューセットを選択します。このオプションは、RECALL/VIEWSET,<NAME> コマンドを編集ウィンドウに挿入します。

カーソルが編集ウィンドウ内で RECALL/VIEWSET,<NAME>コマンド上、または、下にある場合、PC-DMIS は、グラフィックス表示ウィンドウ内に作成されたビューセットを表示します。このコマンドをマークし、実行する場合、PC-DMIS は、測定ルーチン実行中にも、グラフィックス表示ウィンドウ内に、保存された画像を表示します。

それに加え、レポート ウィンドウが、CadReportObject を表示するテンプレートやカスタム レポートを使用している場合、呼び出されたビューセットは、お客様の最終レポート上に表示されます。レポート内のビューセットは、各 RECALL/VIEWSET コマンドごとに、新しいページ上に表示されます。

ビューセットを更新するには:

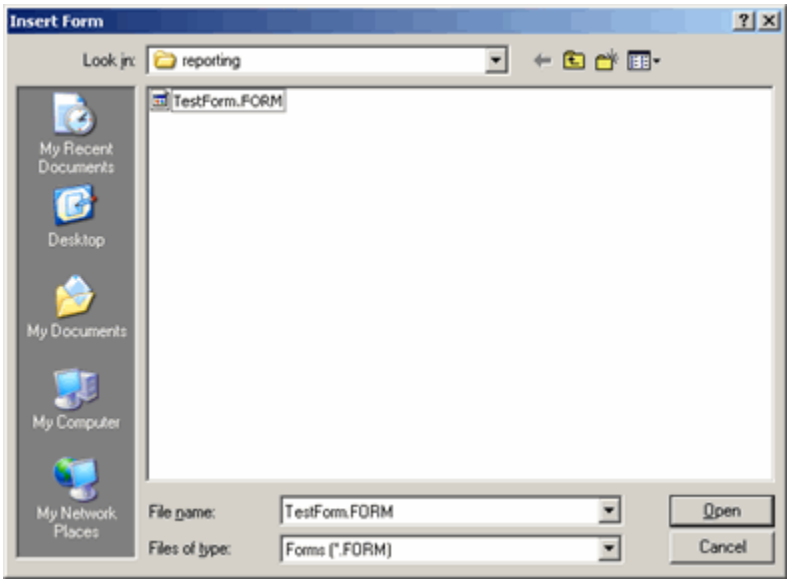
速めに既存ビューセットを変更できます。編集ウィンドウから、RECALL/VIEWSET,<NAME> コマンドを選択して、そのビューの必要に応じて、グラフ

ィックスを表示するウィンドウを変更し、次に、**挿入| レポートコマンド| ビューセットを保存**メニューオプション (または画像モード ツールバーからビューセットを保存アイコン)を選択します。または、**グラフィックモード**ツールバーから、**ビューセットを保存**アイコン ( ) を選択します。

新しいビューセットを作成せずに現在のビューセットを変更して保存したいだけの場合、代わりに**ビューセットを保存**メニューオプションを選択します。

FORM コマンドの挿入

[**挿入 | レポート コマンド | フォーム**]メニュー項目を選ぶと、あらかじめ定義された.FORM ファイルを、測定ルーチン内に挿入することができます。このメニュー項目を選択すると、 [**フォームの挿入**] ダイアログボックスが表示されます。



フォーム挿入ダイアログ ボックス

.FORM ファイルへ移動し、それを選択し、**[開く]**をクリックします。PC-DMIS が、編集ウィンドウ内に、以下に類似した FORM/FILENAME コマンドを挿入します:

```
CS1=FORM/FILENAME=C:\PCDMIS40RELEASE\REPORTING\TESTFORM.FORM
    PARAM/=
    ENDFORM/
```

FILENAME = これは.FORM ファイルのロードする場所を定義します。

PARAM/ - これは情報をフォームに送信します。例えば、`PARAM/Text1.Text = C1.INPUT` の PARAM/Text1 を使用すると、コメント `C1.INPUT` の値を送信し、それをコントロールに送ることができます。

または、FORM を入力し TAB を押して、測定ルーチンに FORM/FILENAME コマンドを挿入してから、手動でパスを入力し希望のフォームを読み込みます。

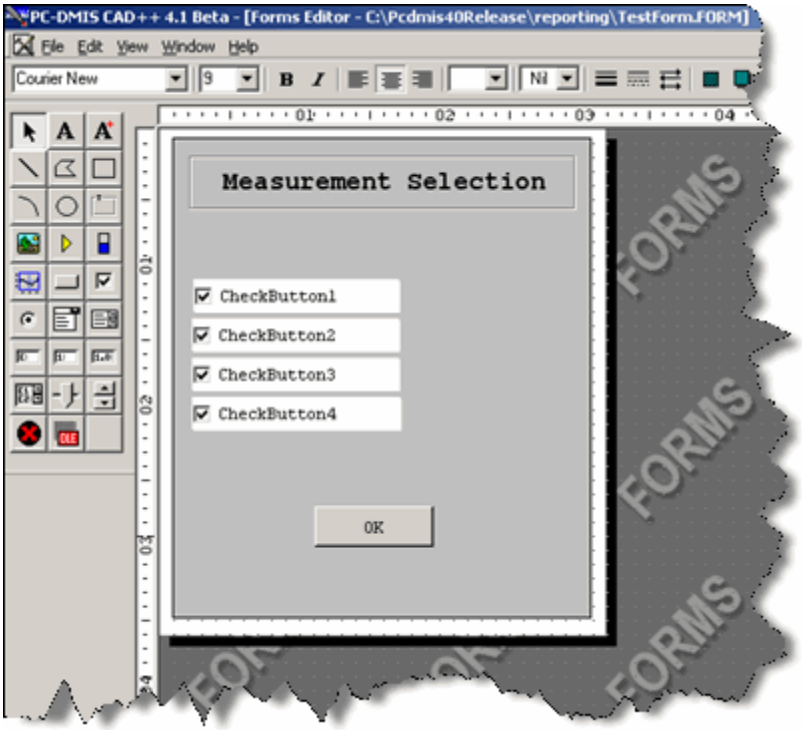
PC-DMIS がこのコマンドを実行する場合、それは定義されたフォームを機動し、すべての定義されたパラメータをフォームのコントローラにパスします。

書式と測定ルーチン間のコミュニケーション

ASSIGN と PARAM ステートメントの組み合わせを使用して、フォームから値を渡すことができます。これで、フォームの測定ルーチンとの間に便利な双方向通信を設定できます。

ASSIGN ステートメント - ASSIGN ステートメントをフォームのコントロールの値を初期化することができます。これらのステートメントは、変数を作成でき、フォームを閉じた後に、フォームから更新された値を受け取ることができます。

たとえば、以下のように四つの名前のないチェックボックスがあるフォームを持つことを仮定します。



そこで、それらに名称と値を動的に与えるよう、測定ルーチンに指示します。編集ウィンドウでは、以下のように ASSIGN ステートメントを使用してチェックボックスを名前を付けて、初期化します：

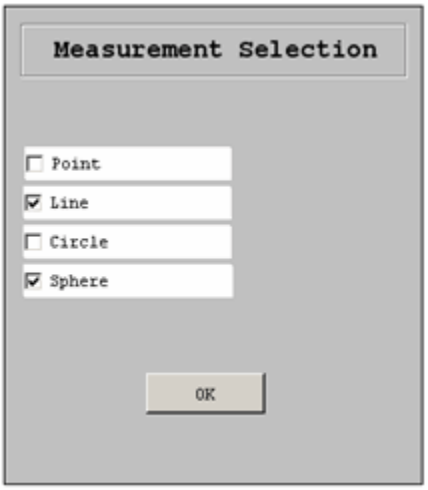
```
ASSIGN/CHECK1VALUE=0
ASSIGN/CHECK1TEXT="Point"
ASSIGN/CHECK2VALUE=1
ASSIGN/CHECK2TEXT="Line"
ASSIGN/CHECK3VALUE=0
ASSIGN/CHECK3TEXT="Circle"
ASSIGN/CHECK4VALUE=1
ASSIGN/CHECK4TEXT="Sphere"
```

PARAM ステートメント - 今、あなたがいくつの変数を持ち、PARAM ステートメントを使用して以下のように変数とフォーム自身の間の接続を確立できます：

```
CS1=FORM/FILENAME=
C:\PCDMIS40RELEASE\REPORTING\TESTFORM.FORM
    PARAM/CHECKBUTTON1.VALUE=CHECK1VALUE
    PARAM/CHECKBUTTON1.TEXT=CHECK1TEXT
```

```
PARAM/CHECKBUTTON2.VALUE=CHECK2VALUE
PARAM/CHECKBUTTON2.TEXT=CHECK2TEXT
PARAM/CHECKBUTTON3.VALUE=CHECK3VALUE
PARAM/CHECKBUTTON3.TEXT=CHECK3TEXT
PARAM/CHECKBUTTON4.VALUE=CHECK4VALUE
PARAM/CHECKBUTTON4.TEXT=CHECK4TEXT
PARAM/=
ENDFORM/
```

書式が呼び出されると、CHECKBUTTON1 にはチェックがなく、そのテキスト ラベルには「点」の表示があり、CHECKBUTTON2 にはチェックがあり、そのテキスト ラベルには「直線」の表示があり、CHECKBUTTON3 にはチェックがなく、そのテキスト ラベルには「円」の表示があり、CHECKBUTTON4 にはチェックがあり、そのテキスト ラベルには「球」の表示があり、以下のようになります。



フォームが読み込まれると、チェックボックスを別のものに選択または選択解除することができます。フォームを閉じると、チェックされた状態を最初に設定する変数 (CHECK1VALUE, CHECK2VALUE, CHECK3VALUE および CHECK4VALUE) がこの時点でチェックボックスの現在の値を保持します。

スクリーン キャプチャの挿入

このトピックでは画面キャプチャを追加するための古い方法について詳述します。それは下位互換性を維持する目的で残されています。新しい**スナップショット**メニューオプションを使用してみてください。より豊富な機能を備えています。詳しくは、この章の「スナップショットの挿入」を参照してください。

挿入 | レポートコマンド | 画面キャプチャメニュー項目を使用して、レポートにおけるパートの画面キャプチャを表示することができます。このメニューオプションは編集ウィンドウに `DISPLAY/METAFILE` コマンドを設定します。このコマンドがマークされて実行された場合に、PC-DMIS は自動に画面の取り込みをリフレッシュして、レポートにそれを表示します。

編集ウィンドウ内のコマンドライン:
`DISPLAY/METAFILE,"___",TOG1,TOG2`

___ = このフィールドには、キャプチャした画面の説明を入力できます。テキストは最大 255 字に制限されています。

TOG1 = このフィールドでは、スクリーン キャプチャーの品質が決定されます。以下のうちから、選択してトグル変更することができます: 25%、50%、 75%、100%及びスクリーンに適合。

TOG2 = このフィールドでは、画面捕獲の品質が決定されます。以下のうちから、選択してトグル変更することができます: **高品質**、 **良品質**及び **低品質**

これをレポートウィンドウに表示するには、レポートウィンドウ内のいくつのテキストを右クリックし、**編集**を選択し、**レポート** ダイアログ ボックスが表示する場合、 **画面キャプチャを表示** チェックボックスを選択します。

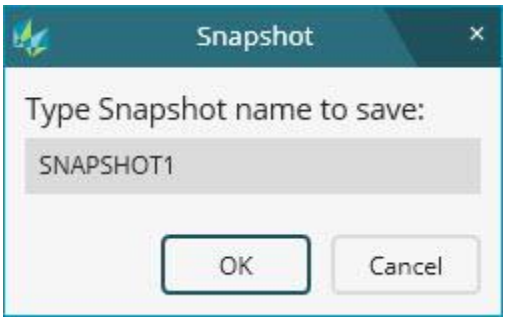
このコマンドは分析ウィンドウで作成した ANALYSISVIEW コマンドと DISPLAY/METAFILE コマンドと同じです。分析ウィンドウの詳細については、この章の「分析エリア」を参照してください。

グラフィック表示ウィンドウ内のテキストの **True Type フォント**を使用すると画像キャプチャ時に最良の結果が得られます。

スナップショットの挿入

挿入| レポートコマンド| スナップショットメニュー項目を使用して、レポートの部品の画面キャプチャを表示します。

メニュー項目を選択すると、**スナップショット**ダイアログボックスが開き、スナップショット名を入力できます。



スナップショットダイアログボックス

[**グラフィックスモード**]ツールバーの[**スナップショットの挿入**]ボタン ( ) もこのダイアログボックスを開きます。

名前が定義されたら、PC-DMIS はその名前の SNAPSHOT コマンドを編集ウィンドウに挿入します。このコマンドがマークされて実行された場合に、PC-DMIS は自動に画面の取り込みをリフレッシュして、レポートにそれを表示します。

コマンドモードの編集ウィンドウで、手動で SNAPSHOT と入力して Tab キーを押すこともできます。Tab キーを押すと、PC-DMIS はグラフィック表示ウィンドウの状態のプロパティをコマンドに保存します。実行中、PC-DMIS は、ソフトウェアがコマンドを実行すると、キャプチャをレポートに挿入します。

編集ウィンドウのコマンドライン:
TOG1 =SNAPSHOT/

TOG1 = このフィールドにはスナップショットの名前が入ります。

DISPLAY/METAFILE コマンドとの相違点

SNAPSHOT コマンドは、DISPLAY/METAFILE コマンドよりも優れた画面キャプチャを提供します。スナップショット機能は DISPLAY/METAFILE と似ていますが、次の点が異なります。

- SNAPSHOT コマンドは、画面キャプチャのグラフィック表示ウィンドウに表示されるさまざまな分析関連項目を更新します。これらの分析項目には、グラフィカル分析、ポイントクラウドカラーマップ、寸法情報のラベル、偏差色付きスキャン矢印などが含まれます。DISPLAY/METAFILE を使用すると、より静的なイメージが得られます。
- SNAPSHOT コマンドは、画面の向きとズームレベルを保存します。
- SNAPSHOT コマンドは、複数のビューで機能します。

デフォルトのスナップショット名

スナップショット名を入力しないと、デフォルトの名前はこのパターン SNAPSHOT1、SNAPSHOT2、SNAPSHOT3 ...のように続きます。

CAD セットアップツールバーのリストから CAD モデルビューを最初に選択し、**スナップショット**ダイアログボックスにアクセスすると、デフォルトのパターンは現在のモデルビューの名前に従います。

部品の右側を表示する**右**の名前を持つ CAD モデルビューがあるとします。一覧から[**右**]を選択し、[**スナップショット**]ダイアログボックスにアクセスすると、スナップショット名は「Right1」に表示されます。もう一度やり直すと、次のスナップショット名には「Right2」などが表示されます。

スナップショットコマンドの挿入

1. グラフィック表示ウィンドウで、パーツを移動、ズーム、回転させて、希望の方法でパーツを回転させます。
2. **グラフィックモード**ツールバーから、**スナップショットを挿入** ( ) をクリックして、**スナップショット**ダイアログボックスを表示します。
3. [**スナップショット**]ダイアログボックスで、画面キャプチャの名称を入力します。
4. [**OK**]をクリックして、編集ウィンドウの選択した場所に `SNAPSHOT` コマンドを挿入します。
5. PC-DMIS が現在の位置に挿入できない場合、挿入をどのように処理するかを尋ねるメッセージボックスが表示されます。メッセージボックスで次の 3 つの項目のいずれかを選択できます：。
    - **次の位置** - 次の有効な位置にコマンドを挿入します。
    - **プログラムの終了** - 測定ルーチンの最後にコマンドを挿入します。

- **挿入しない** - これはコマンドを挿入しません。

グラフィック表示ウィンドウにおけるスナップショットの表示

1. 編集ウィンドウで SNAPSHOT コマンドを選択します。
2. Ctrl + E を押してそのコマンドのみを実行します。これによってグラフィック表示ウィンドウにスナップショットが表示されます。

グラフィック表示ウィンドウからスナップショットコマンドを更新する

1. 編集ウィンドウから、更新する SNAPSHOT コマンドを選択します。
2. F9 キーを押して**スナップショット**ダイアログボックスを開きます。グラフィック表示ウィンドウは、スナップショットに保存されているビューをロードします。
3. グラフィック表示ウィンドウでは、更新されたスナップショットに合わせてパーツを移動、ズーム、回転することができます。
4. 必要に応じて、名称を変更します。
5. [**OK**]をクリックして、そのスナップショットを新しいグラフィック表示ウィンドウのプロパティで更新します。

レポートからスナップショットコマンドを更新する

1. ルーチンを実行し、**表示 | レポートウィンドウ**を選択してレポートウィンドウにおけるレポートにアクセスします。
2. レポートウィンドウからスナップショット画像をダブルクリックして、それを CADReportObject (CRO)に変換します。
3. CRO でパン、ズームおよび回転を行ってそれを修正します。CRO での操作について詳しくは、「測定結果のレポート」章の「CadReportObject (CAD レポートオブジェクト)」を参照してください。
4. CRO の外側をダブルクリックして、レポートへの CRO の変更を確定します。PC-DMIS は同じ CRO の変更を編集コマンドにおける SNAPSHOT コマンドに適

用します。そのコマンドが続いて実行される場合、更新された SNAPSHOT コマンドが使用されます。

カスタムレポートにスナップショットを追加すること

1. レポートウィンドウで、カスタムレポートを編集するか、新しいカスタムレポートを作成します。カスタムレポートの詳細については、「測定結果のレポート」の章の「カスタムレポートの作成」を参照してください。
2. 要約モードの編集ウィンドウで、レポートに必要なスナップショットコマンドを選択します。
3. それをカスタムレポートにドラッグアンドドロップして、画面キャプチャを表示します。

参照されたコマンドの削除

グラフィック表示ウィンドウ (寸法情報ボックスなど) に可視要素を作成する編集ウィンドウ内のコマンドは、スナップショットコマンドによって参照されるコマンドと見なされます。つまり、スナップショットコマンドには、スクリーンキャプチャを作成するために参照されたコマンドが必要です。スナップショットコマンドは、存在しないコマンドは参照できません。したがって、これらの参照コマンドを削除すると、PC-DMIS は関連付けられたスナップショットコマンドも削除するかどうかを尋ねられます。